

4 特定課題

自転車新文化の推進

問33 自転車新文化の認知度

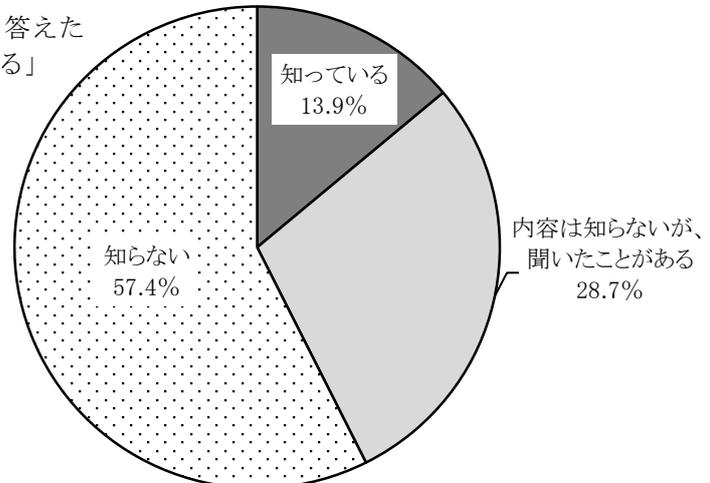
県では、平成23年度から「自転車新文化の推進」に取り組んでいますが、あなたは、「自転車新文化」をご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

《「自転車新文化」とは》

サイクリングを核にして交流人口を拡大することにより、地域の活性化に繋げるとともに、県民に自転車を活用したライフスタイルを提案し、「健康」、「生きがい」、「友情」を育み、生活の向上を図ろうとする取り組み

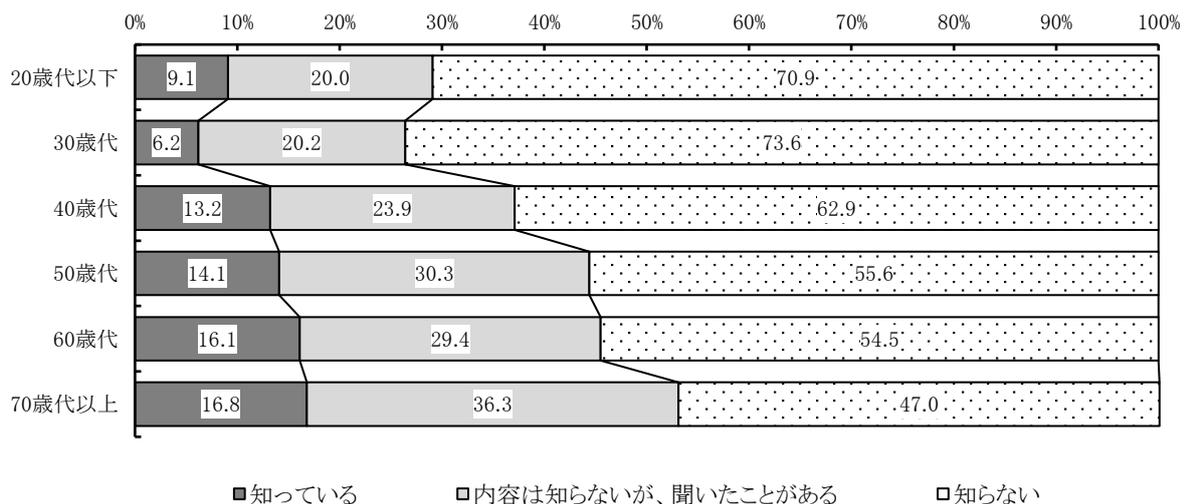
	(%)
1 知っている	13.9
2 内容は知らないが、聞いたことがある	28.7
3 知らない	57.4

自転車新文化について聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が13.9%、「内容は知らないが、聞いたことがある」が28.7%、「知らない」が57.4%となっている。



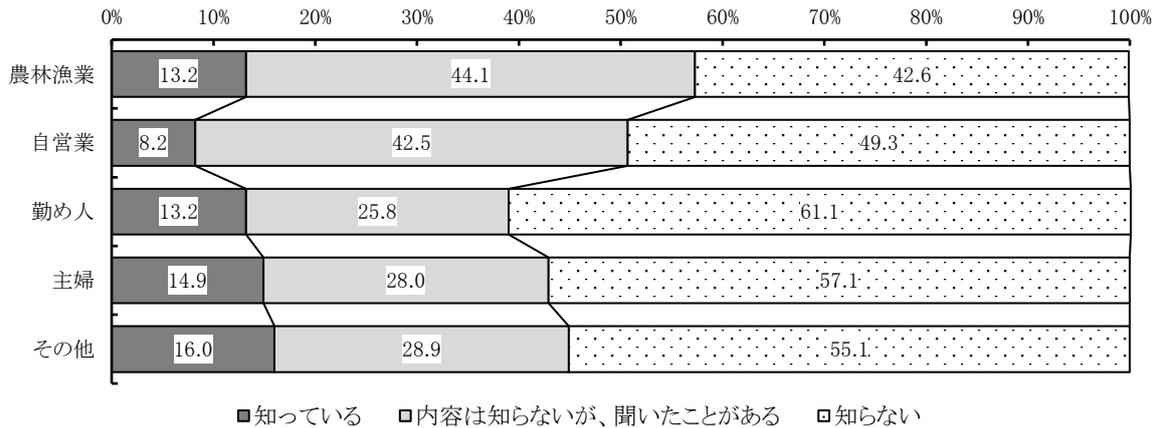
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らない」と答えた人の割合が多く、30歳代以下では「知らない」と答えた人の割合が特に多く、7割を超えている。「知っている」、「内容は知らないが、聞いたことがある」と答えた人の割合は70歳代以上で最も多くなっている。



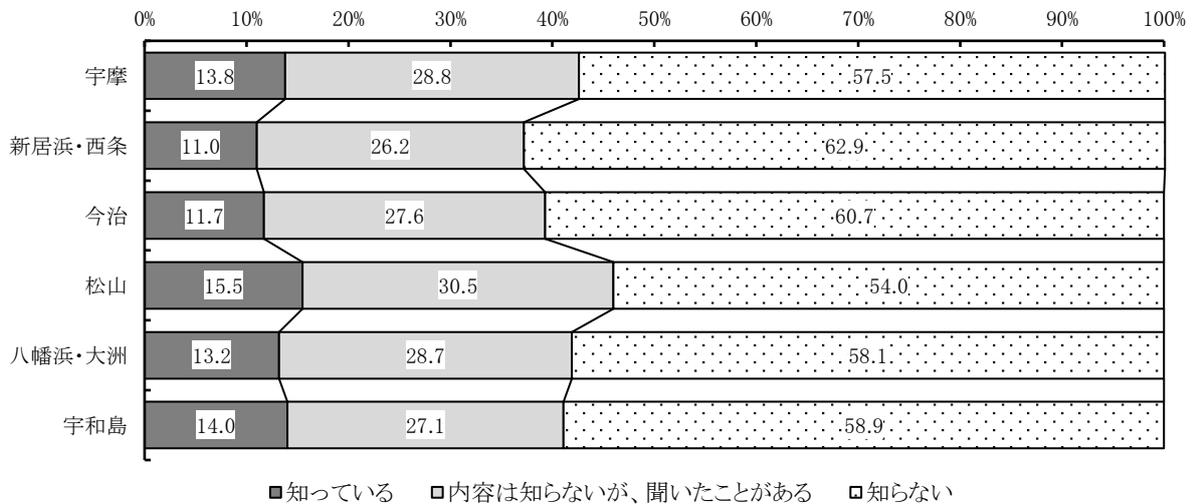
【職業別】

職業別にみると、「知らない」と答えた人の割合は、勤め人(61.1%)で最も多くなっている。「知っている」と答えた人の割合は、主婦(14.9%)で最も多くなっている。一方、「内容は知らないが、聞いたことがある」と答えた人の割合は、農林漁業(44.1%)で多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多く、5割を超えている。

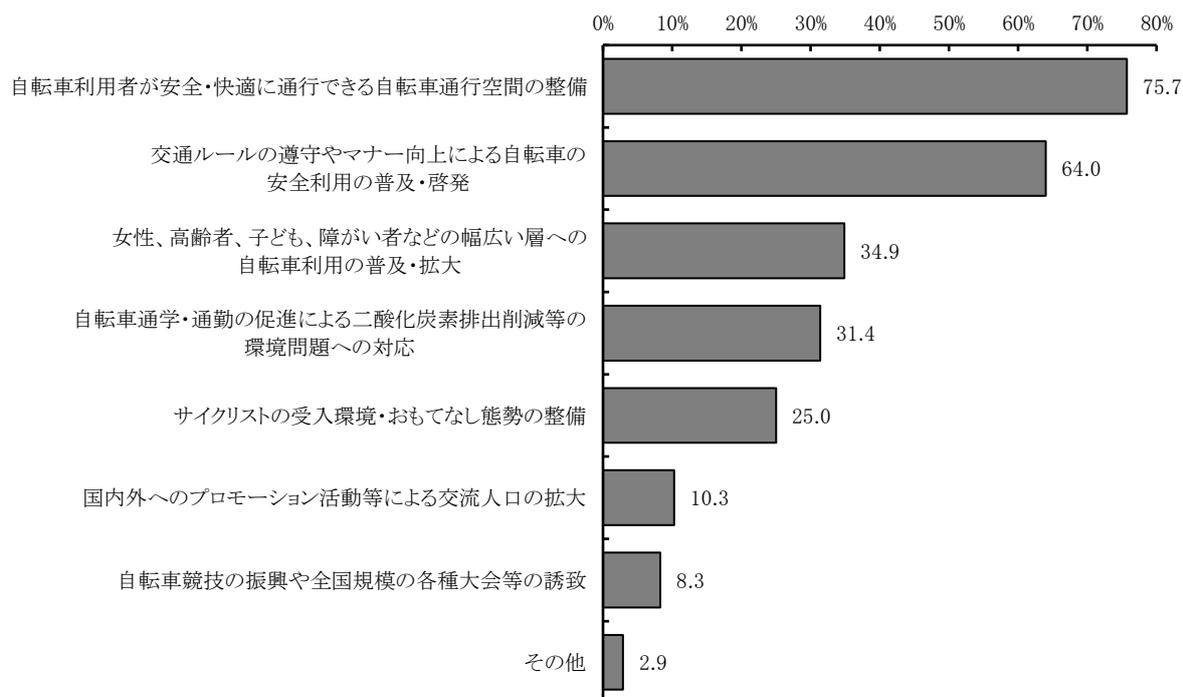


問33-1 自転車新文化の普及・拡大に向けた県の取組み

「自転車新文化」の更なる普及・拡大のため、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

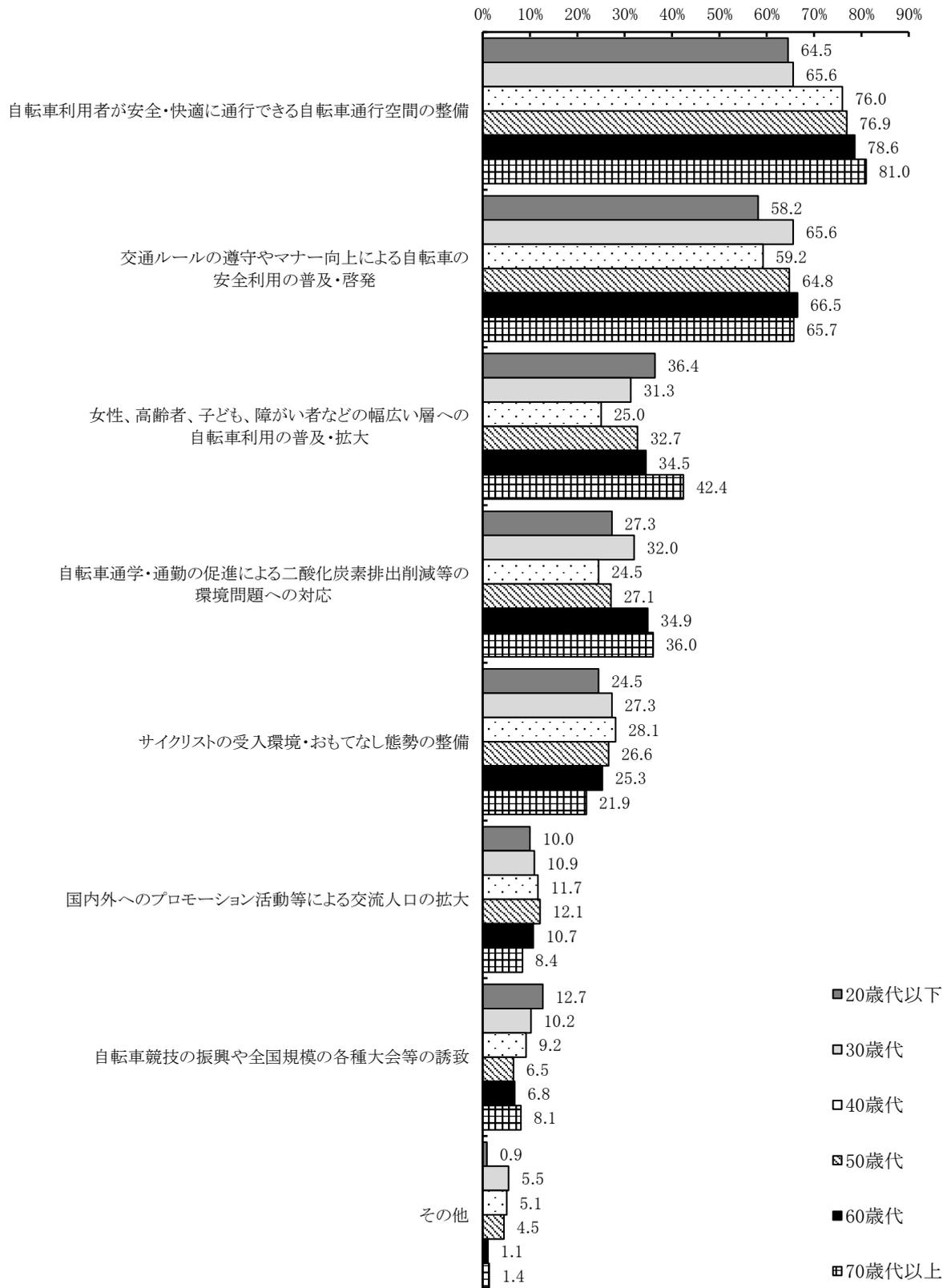
	(複数回答)	(%)
1 女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大	34.9	34.9
2 自転車通学・通勤の促進による二酸化炭素排出削減等の環境問題への対応	31.4	31.4
3 国内外へのプロモーション活動等による交流人口の拡大	10.3	10.3
4 サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備	25.0	25.0
5 自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備	75.7	75.7
6 交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発	64.0	64.0
7 自転車競技の振興や全国規模の各種大会等の誘致	8.3	8.3
8 その他	2.9	2.9

自転車新文化の普及・拡大のため力を入れる取組みについて聞いたところ、「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」(75.7%)と答えた人の割合が最も多く、以下「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」(64.0%)、「女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大」(34.9%)、「自転車通学・通勤の促進による二酸化炭素排出削減等の環境問題への対応」(31.4%)、「サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備」(25.0%)などの順となっている。



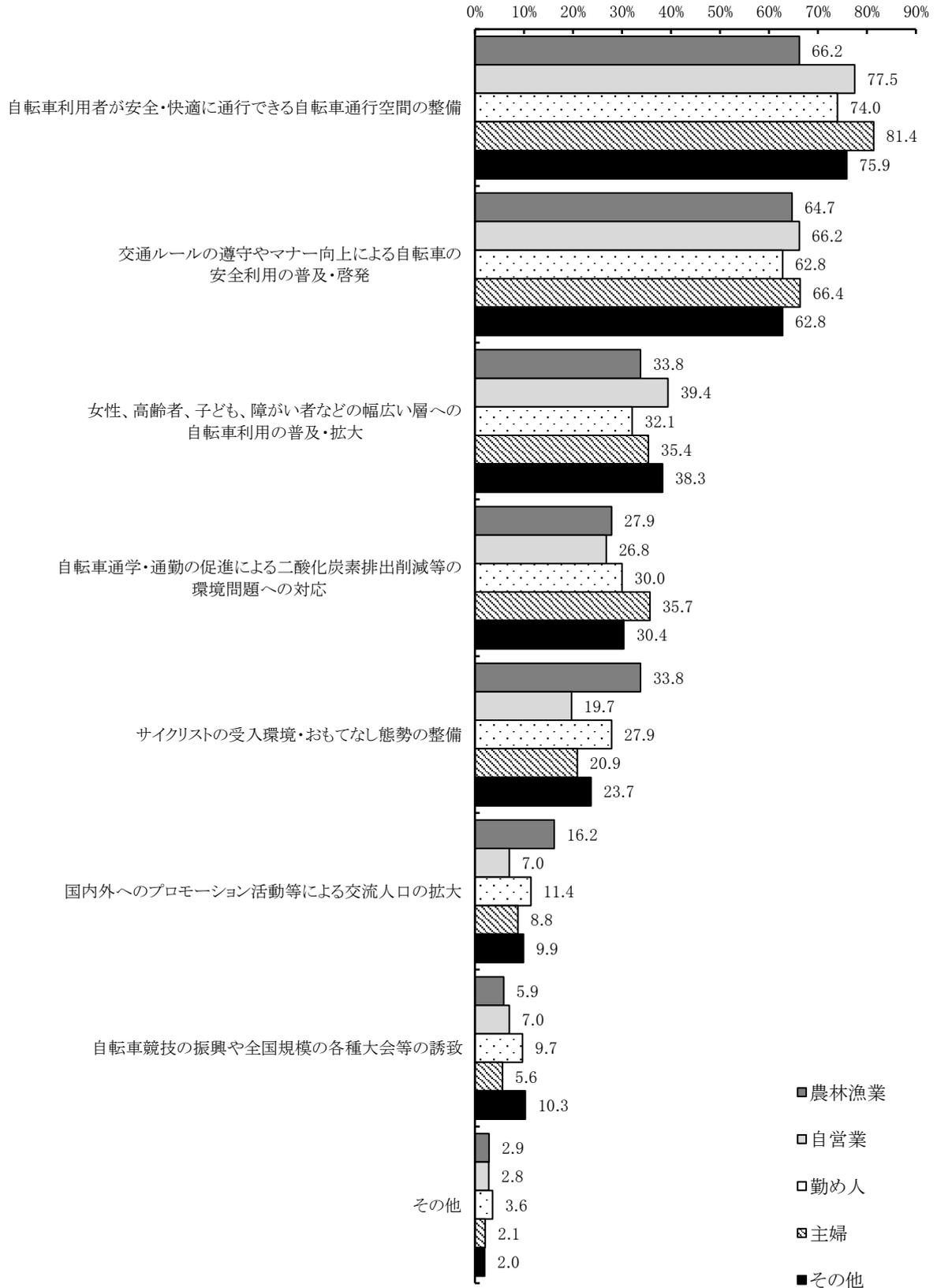
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。30歳代では「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」（65.6%）も同率で最も多くなっている。次いで、全ての年齢層で「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合が多く5割を超えている。



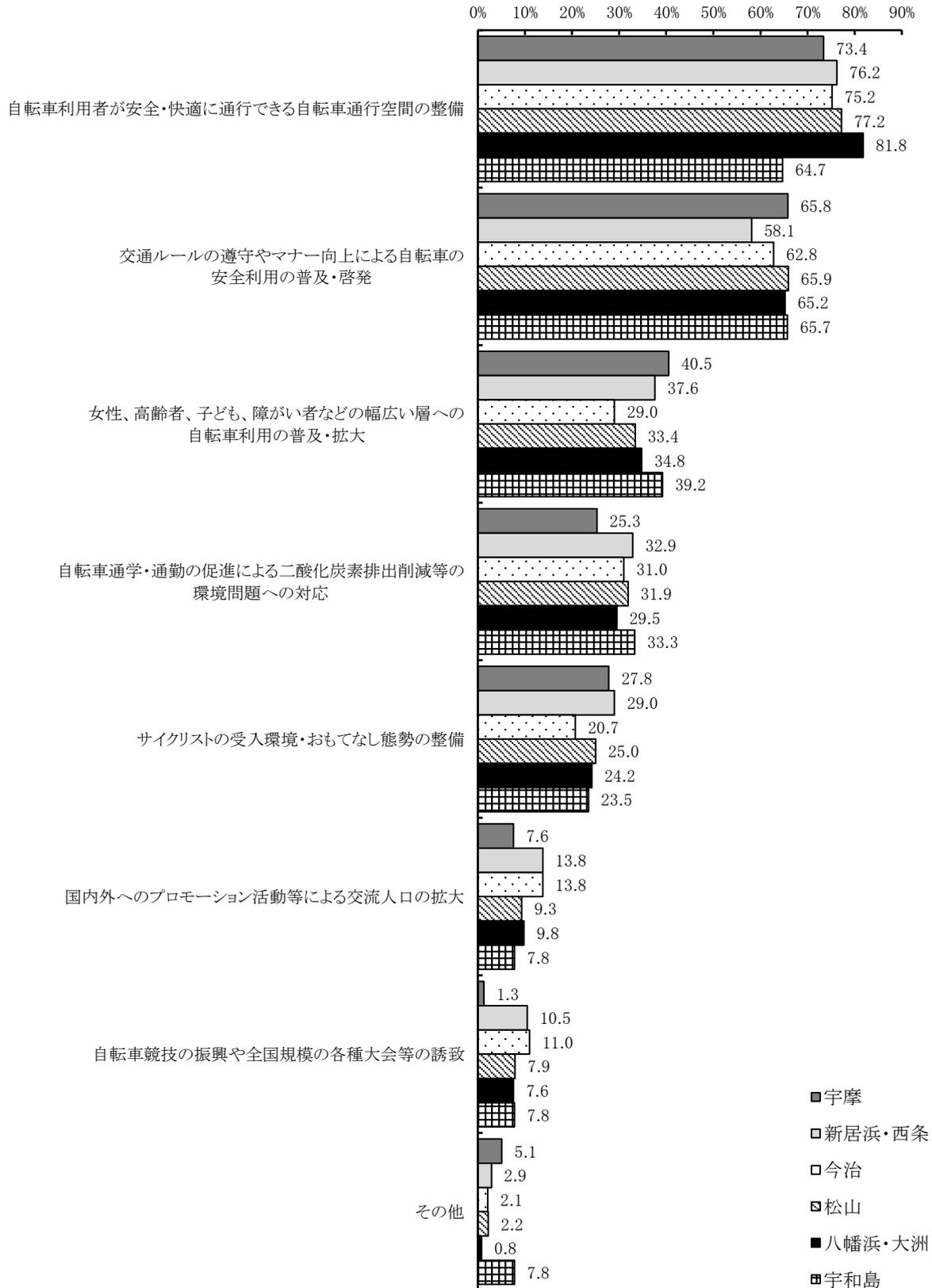
【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。中でも主婦では81.4%と特に多くなっている。次いで、全ての職業で「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合も多く6割を超えている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域を除く全ての圏域で「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く7割を超え、特に八幡浜・大洲圏域では81.8%と最も多くなっている。次いで、宇和島圏域を除く全ての圏域で「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合が多く5割を超えている。宇和島圏域では「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」(65.7%)が最も多く、次いで「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」(64.7%)となっている。



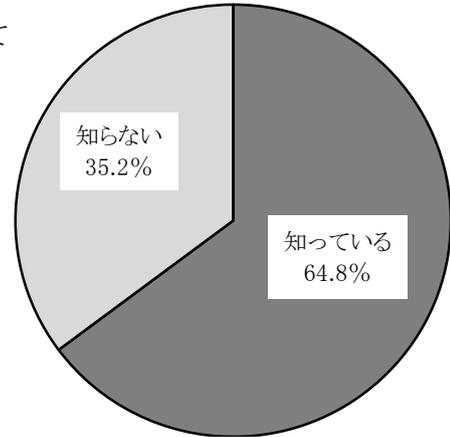
自転車損害保険等の加入

問34 自転車損害保険等の認知度

愛媛県では令和2年4月から条例改正により、自転車利用者は、自転車事故の賠償責任に備える保険（以下「自転車損害保険等」という。）に加入しなければならなくなりましたが、あなたは、このことをご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

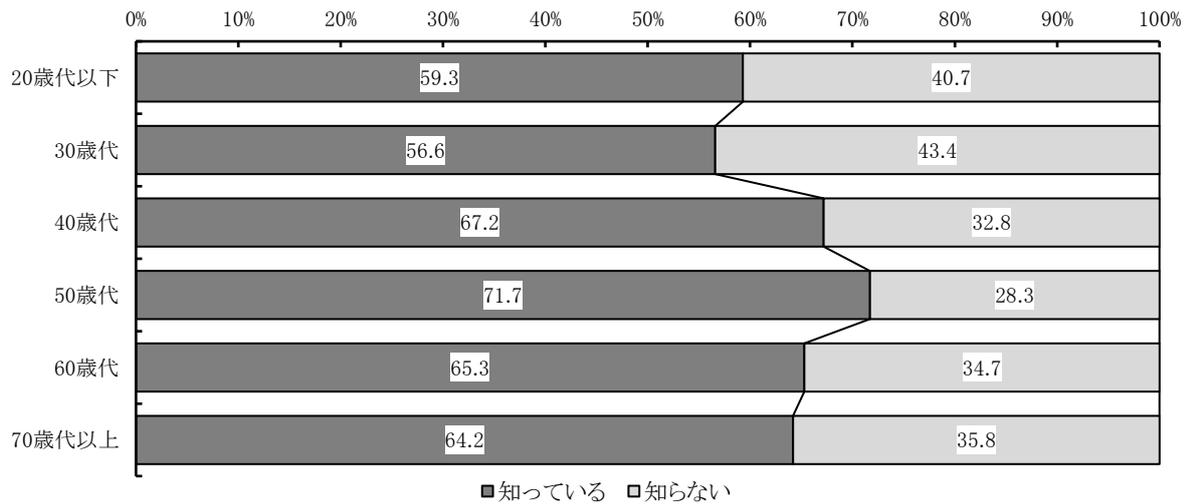
	(%)
1 知っている	64.8
2 知らない	35.2

自転車損害保険等加入義務について聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が64.8%、「知らない」が35.2%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知っている」と答えた人の割合が5割を超え、中でも50歳代（71.7%）が最も多くなっている。

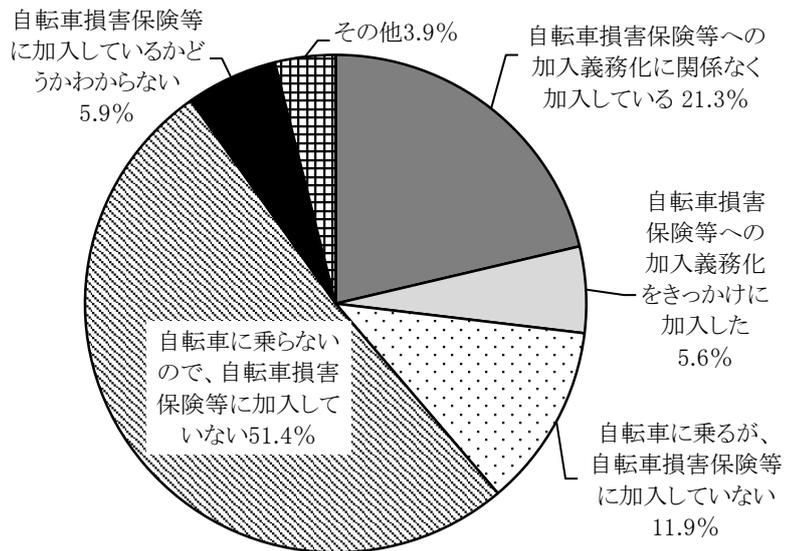


問34-1 自転車損害保険等への加入

あなたは、自転車損害保険等へ加入していますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

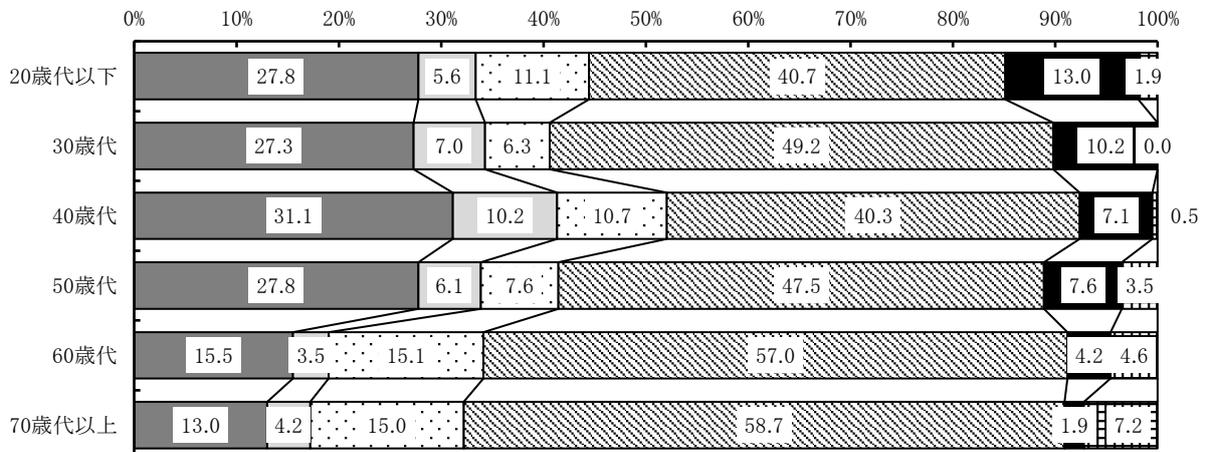
	(%)
1 自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している	21.3
2 自転車損害保険等への加入義務化をきっかけに加入した	5.6
3 自転車に乗るが、自転車損害保険等に加入していない	11.9
4 自転車に乗らないので、自転車損害保険等に加入していない	51.4
5 自転車損害保険等に加入しているかどうか分からない	5.9
6 その他	3.9

自転車損害保険等加入について聞いたところ、「自転車に乗らないので、自転車損害保険等に加入していない」(51.4%)と答えた人の割合が最も多く、以下「自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している」(21.3%)、「自転車に乗るが、自転車損害保険等に加入していない」(11.9%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳代以上では「自転車に乗らないので、自転車損害保険等に加入していない」と答えた人の割合が多く5割を超えている。「自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している」は40歳代(31.1%)で最も多くなっている。



- 自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している
- 自転車損害保険等への加入義務化をきっかけに加入した
- ▨ 自転車に乗るが、自転車損害保険等に加入していない
- ▩ 自転車に乗らないので、自転車損害保険等に加入していない
- 自転車損害保険等に加入しているかどうか分からない
- その他

ヘルメットの着用状況

問35 ヘルメットの着用状況

あなたは、自転車に乗るときはヘルメットを着用していますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 ヘルメットを持っており、着用する	10.0
2 ヘルメットは持っているが、着用しない	7.1
3 ヘルメットを持っていない	82.9

あなたが、自転車用ヘルメットを着用するようになったきっかけは何ですか。最もあてはまるものを、次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

(回答者=105人) (%)

1 交通事故に遭ったり、交通事故を見聞きしたりするなど、実際に危険を感じたから	41.9
2 条例でヘルメットの着用が定められたから	26.7
3 職場・学校・自治体等の交通安全教室を受けたから	4.8
4 かっこいい（おしゃれだ）と思ったから	1.9
5 人（親、友人、上司、同僚など）に勧められたから	2.9
6 職場や学校などで着用が決まったから	14.3
7 ヘルメット着用啓発のポスターやチラシ等を見たから	0.0
8 その他	7.6

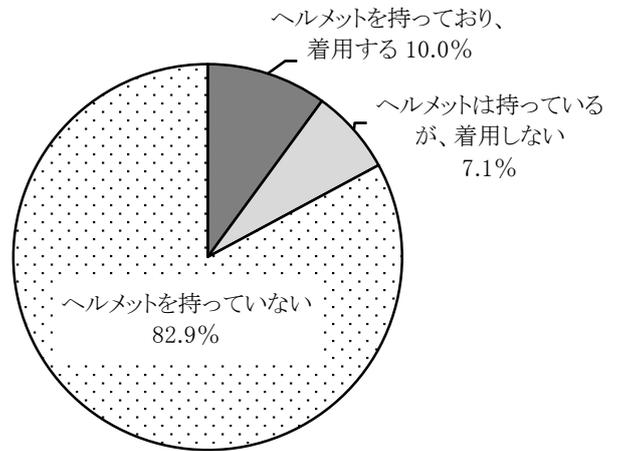
あなたが、自転車用ヘルメットを着用しない、持っていない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

(回答者=983人) (複数回答) (%)

1 見た目がカッコ悪いから	8.6
2 重い、蒸れるなど不快だから	13.3
3 気に入ったデザインがないから	4.8
4 髪型が崩れるのが嫌だから	11.0
5 移動先での保管・持ち運びが面倒だから	18.9
6 危険を感じないから	6.4
7 事故に遭えば、ケガの大きさはヘルメットをしてもしていても同じだから	1.3
8 値段が高いから	7.5
9 そもそもヘルメットの着用を考えたことがないから	25.2
10 その他	51.5

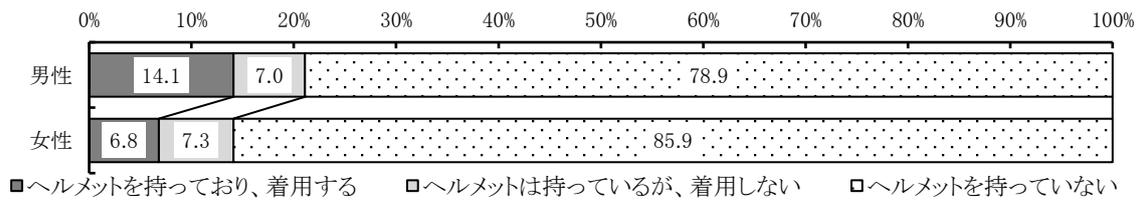
《ヘルメットの着用状況》

ヘルメットの着用状況について聞いたところ、「ヘルメットを持っていない」(82.9%)と答えた人の割合が最も多く、以下「ヘルメットを持っており、着用する」(10.0%)、「ヘルメットは持っているが、着用しない」(7.1%)の順となっている。



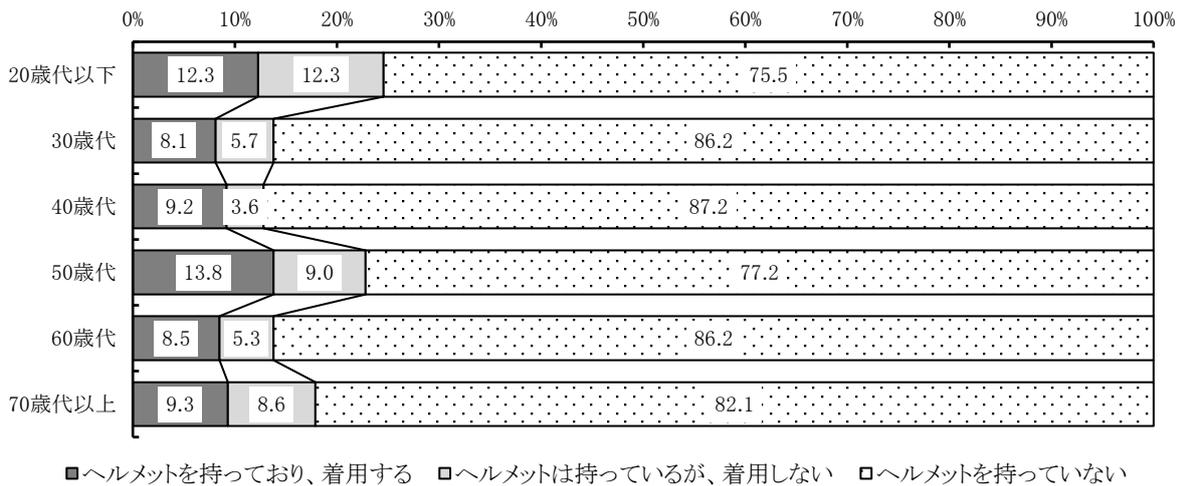
【性別】

性別にみると、「ヘルメットを持っており、着用する」と答えた人の割合は、男性(14.1%)の方が女性(6.8%)より7.3ポイント多くなっている。



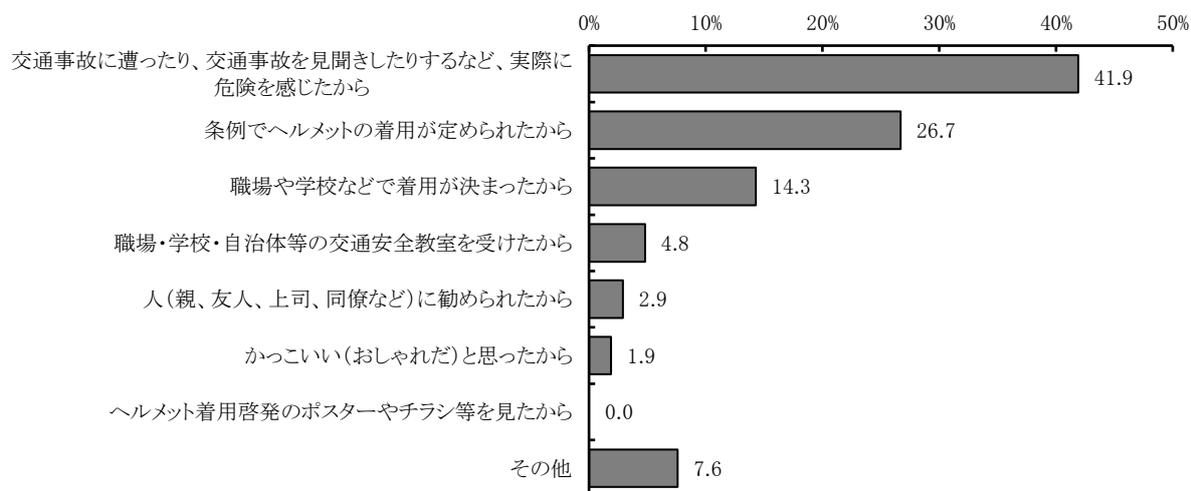
【年齢別】

年齢別にみると、「ヘルメットを持っていない」と答えた人の割合が全ての年齢層で最も多くなっている。40歳代(87.2%)が最も多く、20歳代以下(75.5%)が最も少なくなっている。



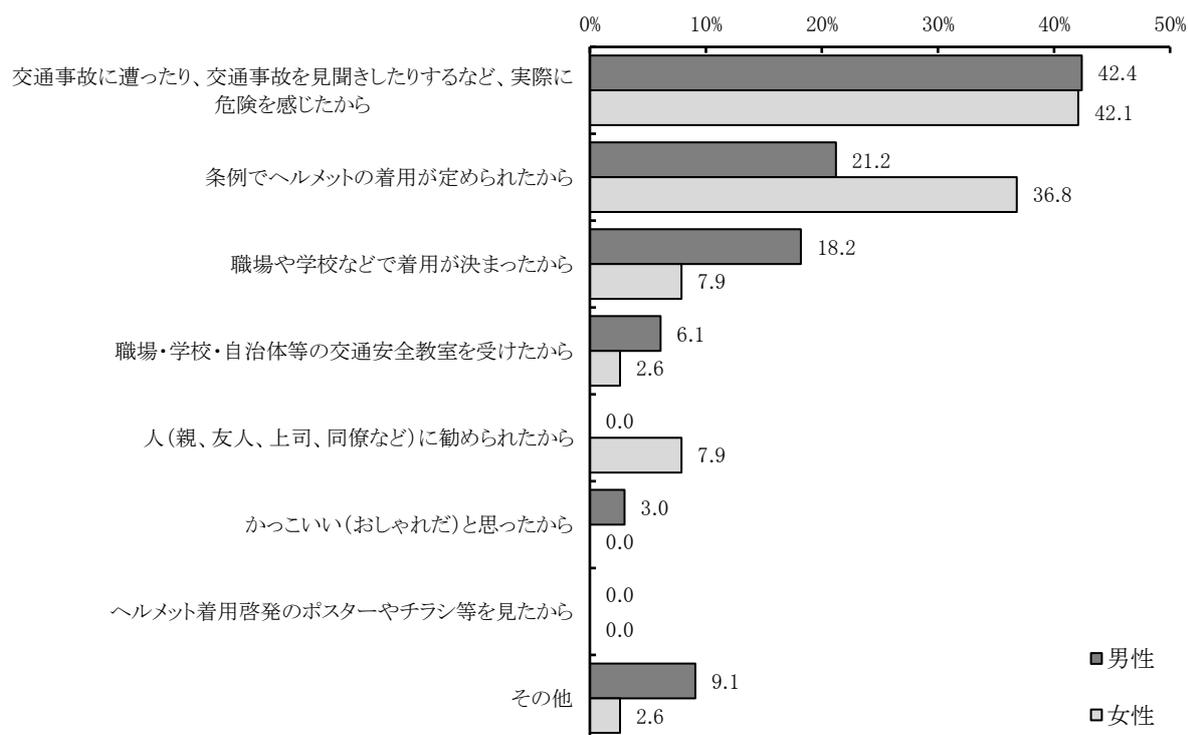
問35-1 ヘルメットを着用する理由

ヘルメットを着用すると答えた人に、着用する理由について聞いたところ、「交通事故に遭ったり、交通事故を見聞きしたりするなど、実際に危険を感じたから」(41.9%)と答えた人の割合が最も多く、以下「条例でヘルメットの着用が定められたから」(26.7%)、「職場や学校などで着用が決まったから」(14.3%)などの順となっている。



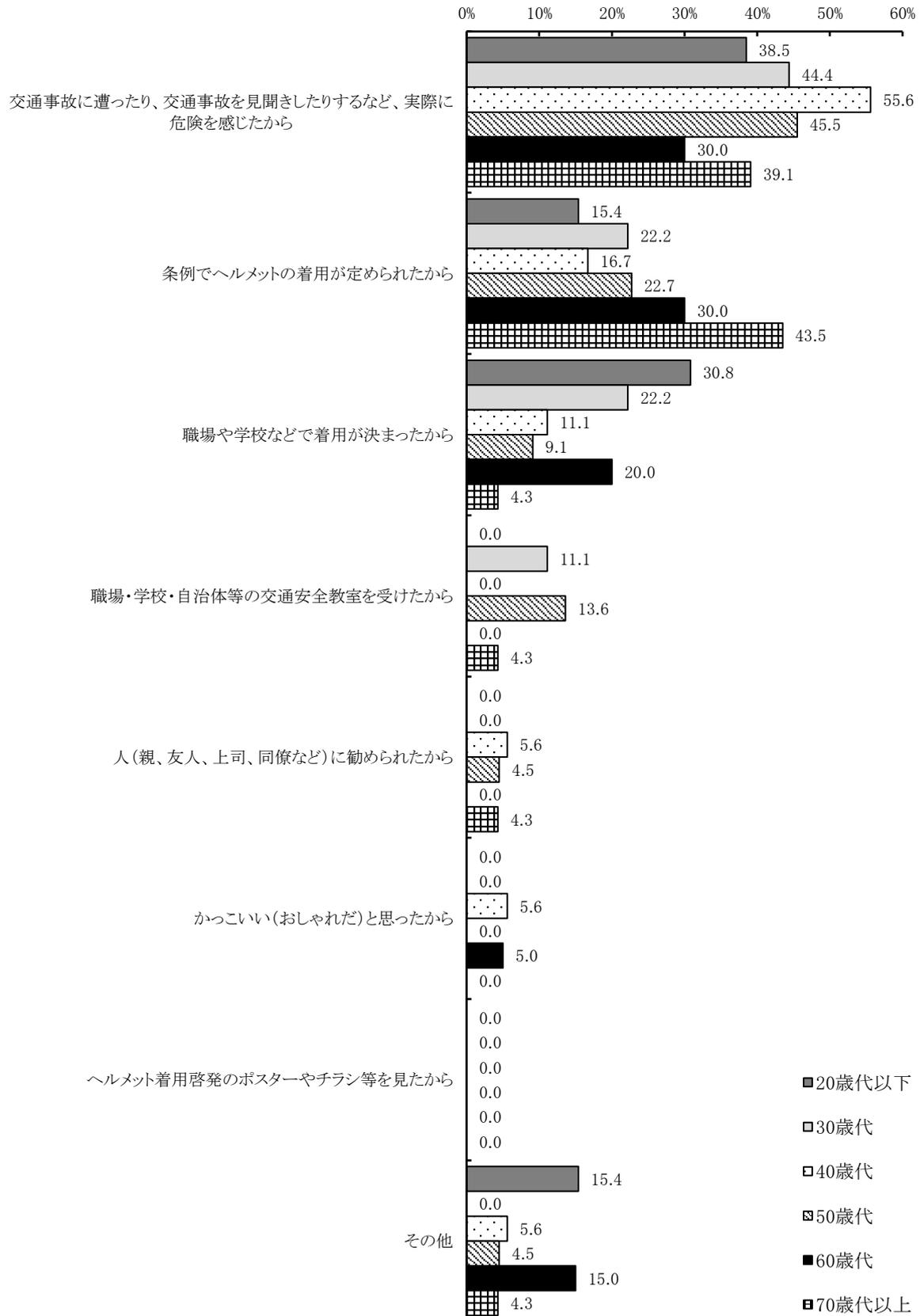
【性別】

性別にみると、男女共に「交通事故に遭ったり、交通事故を見聞きしたりするなど、実際に危険を感じたから」と答えた人の割合が最も多くなっている。「条例でヘルメットの着用が定められたから」と答えた人の割合は、女性(36.8%)の方が男性(21.2%)より15.6ポイント多くなっている。「職場や学校などで着用が決まったから」と答えた人の割合は、男性(18.2%)の方が女性(7.9%)より10.3ポイント多くなっている。



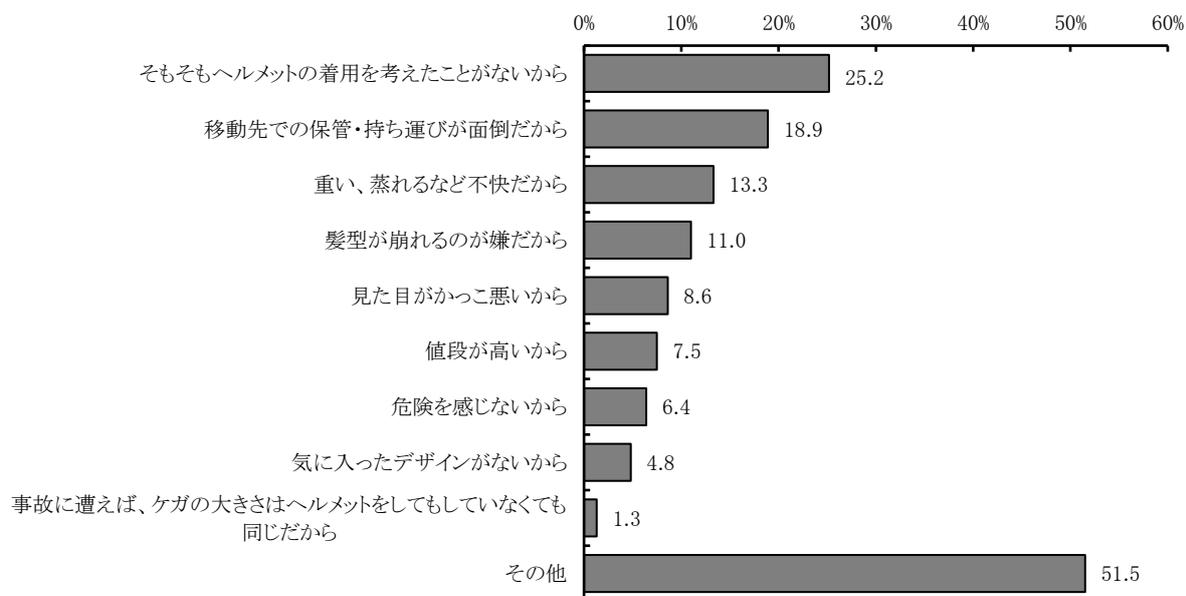
【年齢別】

年齢別にみると、60歳代以下では「交通事故に遭ったり、交通事故を見聞きしたりするなど、実際に危険を感じたから」と答えた人の割合が最も多く、70歳代以上では「条例でヘルメットの着用が定められたから」(43.5%)と答えた人の割合が最も多くなっている。60歳代では「交通事故に遭ったり、交通事故を見聞きしたりするなど、実際に危険を感じたから」(30.0%)と「条例でヘルメットの着用が定められたから」(30.0%)も同率で最も多くなっている。



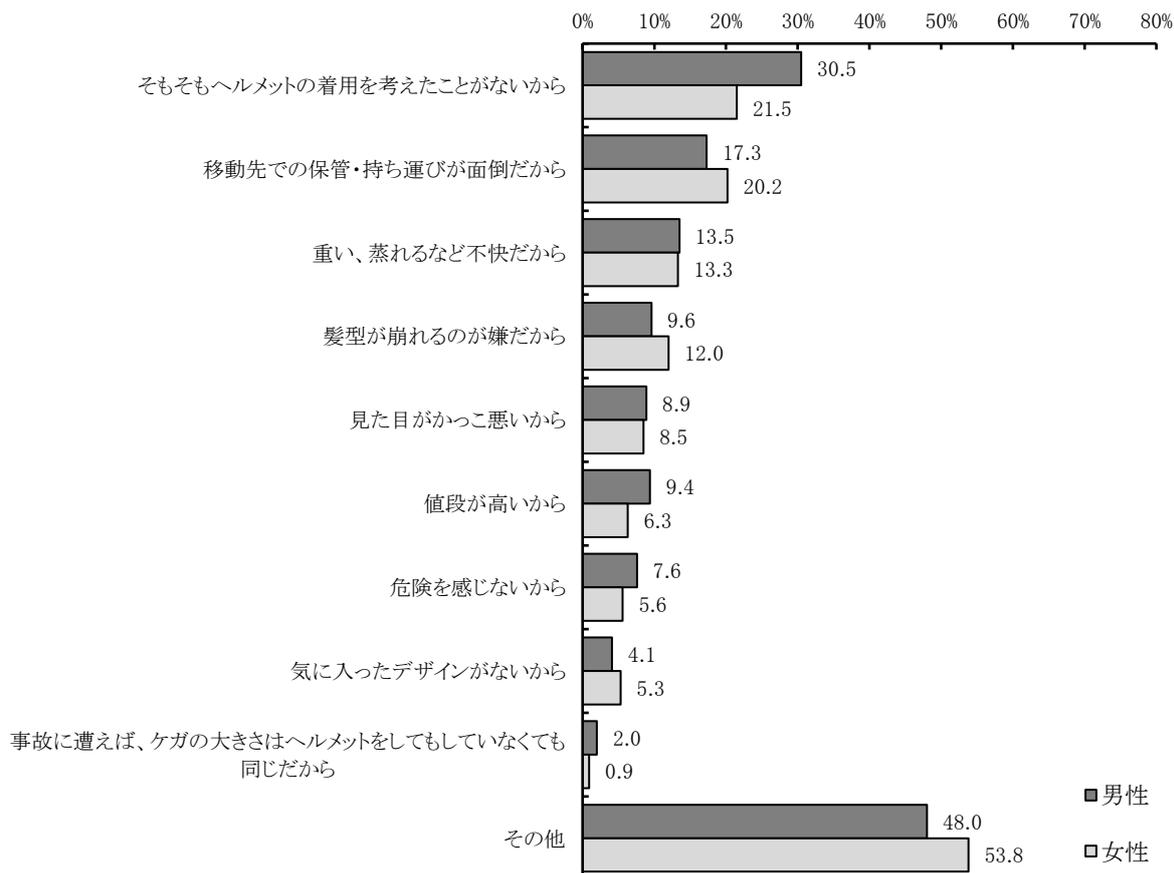
問35-2 ヘルメットを着用しない、持っていない理由

ヘルメットを着用しない、持っていないと答えた人に、その理由について聞いたところ、「そもそもヘルメットの着用を考えたことがないから」(25.2%)と答えた人の割合が最も多く、以下「移動先での保管・持ち運びが面倒だから」(18.9%)、「重い、蒸れるなど不快だから」(13.3%)、「髪型が崩れるのが嫌だから」(11.0%)などの順となっている。



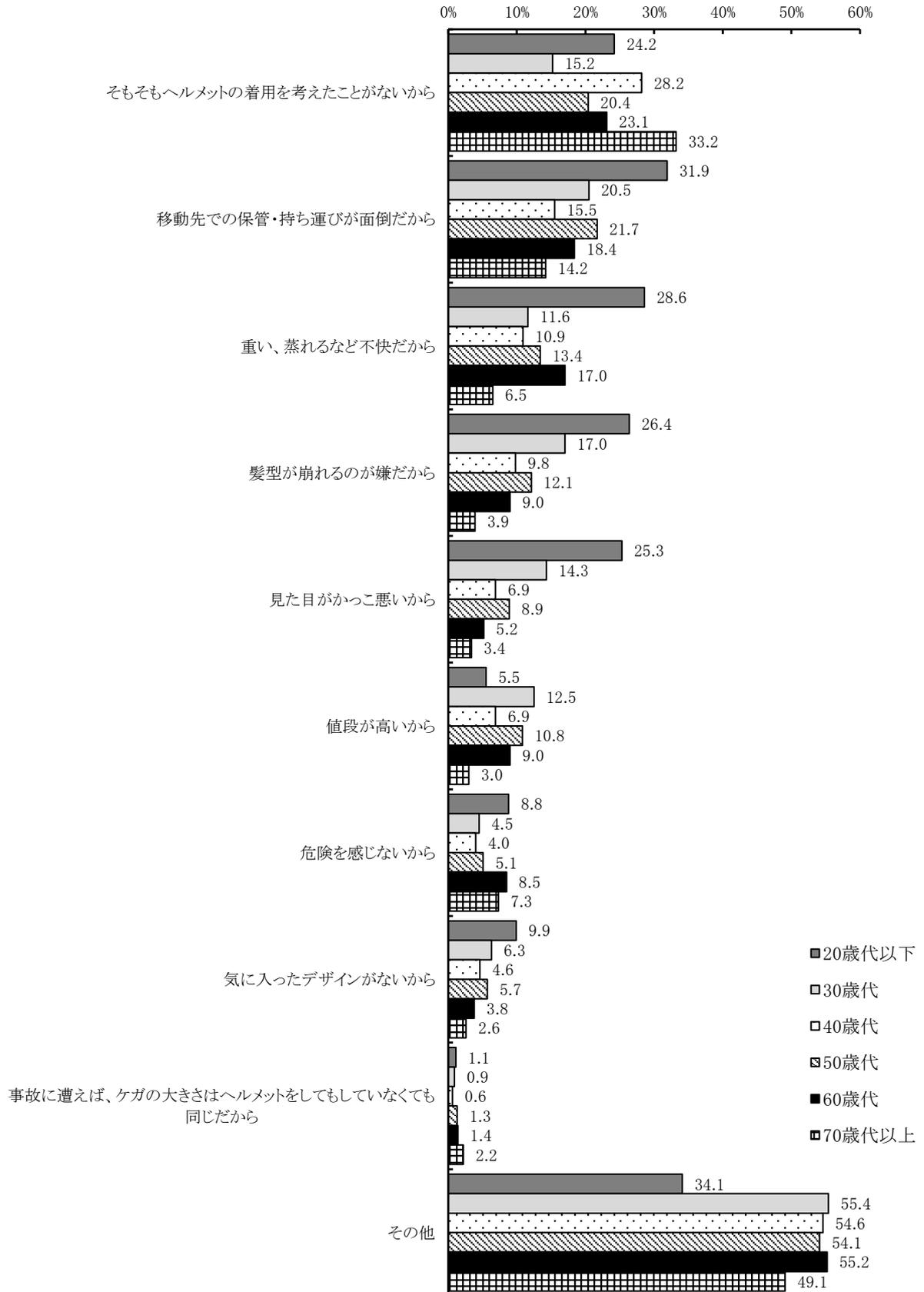
【性別】

性別にみると、男女共に「そもそもヘルメットの着用を考えたことがないから」と答えた人の割合が最も多くなっている。「そもそもヘルメットの着用を考えたことがないから」と答えた人の割合は、男性(30.5%)の方が女性(21.5%)より9.0ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳代及び60歳代以上では「そもそもヘルメットの着用を考えたことがないから」と答えた人の割合が最も多く、30歳代以下及び50歳代では「移動先での保管・持ち運びが面倒だから」と答えた人の割合が最も多くなっている。20歳代以下では「移動先での保管・持ち運びが面倒だから」(31.9%)に次いで「重い、蒸れるなど不快だから」(28.6%)、「髪型が崩れるのが嫌だから」(26.4%)、「見た目がカッコ悪いから」(25.3%)、「そもそもヘルメットの着用を考えたことがないから」(24.2%)となっている。



レジ袋の有料化

問36 レジ袋の有料化

プラスチックは、短期間で経済社会に浸透し、日々の生活に利便性をもたらしましたが、近年、プラスチックごみの海洋への流出による環境汚染が懸念されています。このため、不必要な使い捨てプラスチックごみの削減を図るため、全国一律でのレジ袋の有料化が、令和2年7月1日から開始されました。あなたは、レジ袋の有料化が義務化されたことを受け、どのような対応をとっていますか、次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

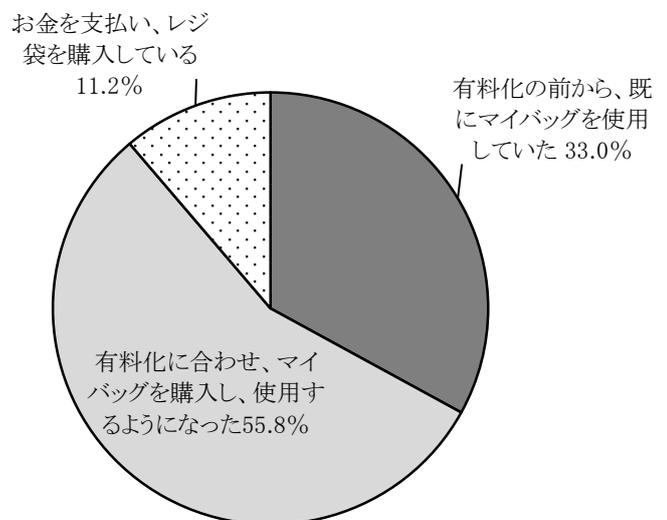
	(%)
1 有料化の前から、既にマイバッグを使用していた	33.0
2 有料化に合わせ、マイバッグを購入し、使用するようになった	55.8
3 お金を支払い、レジ袋を購入している	11.2

あなたが、マイバッグを持参・利用する場所はどこですか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

	(回答者=1115人) (複数回答)	(%)
1 スーパーマーケット		97.6
2 百貨店		26.6
3 ドラッグストア		80.4
4 ショッピングセンター		55.0
5 ホームセンター		53.3
6 コンビニエンスストア		63.0
7 家電量販店		17.8
8 その他の店舗		15.2

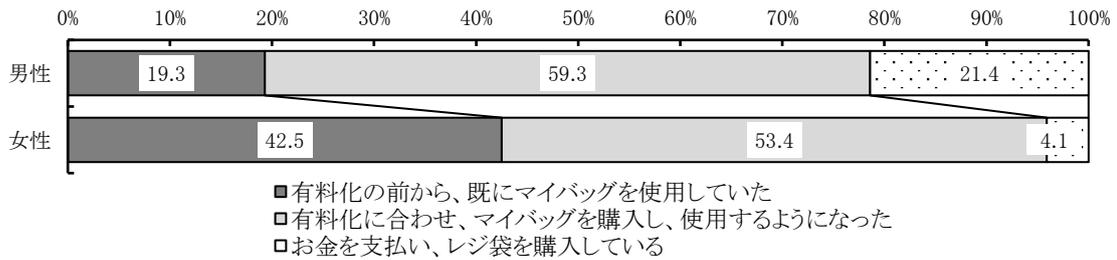
《レジ袋の有料化》

レジ袋有料化について聞いたところ、「有料化に合わせ、マイバッグを購入し、使用するようになった」(55.8%)と答えた人の割合が最も多く、以下「有料化の前から、既にマイバッグを使用していた」(33.0%)、「お金を支払い、レジ袋を購入している」(11.2%)の順となっている。



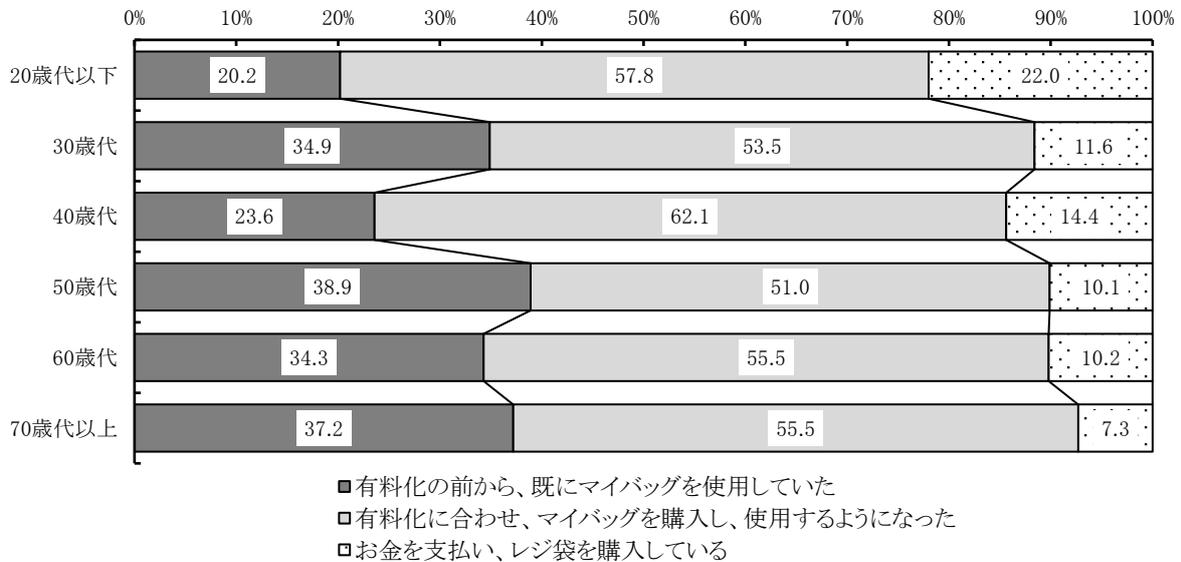
【性別】

性別にみると、男女共に「有料化に合わせ、マイバッグを購入し、使用するようになった」と答えた人の割合が最も多くなっている。「有料化の前から、既にマイバッグを使用していた」と答えた人の割合は、女性（42.5%）の方が男性（19.3%）より23.2ポイント多くなっている。



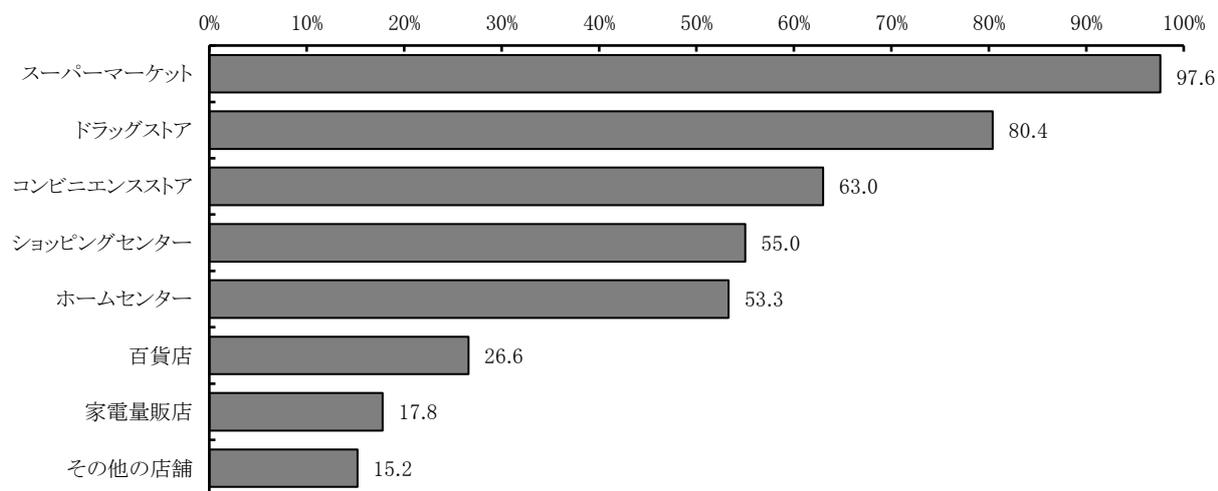
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「有料化に合わせ、マイバッグを購入し、使用するようになった」と答えた人の割合が最も多く、5割を超えており、中でも40歳代(62.1%)が最も多くなっている。一方、「有料化の前から、既にマイバッグを使用していた」は50歳代(38.9%)が最も多くなっている。



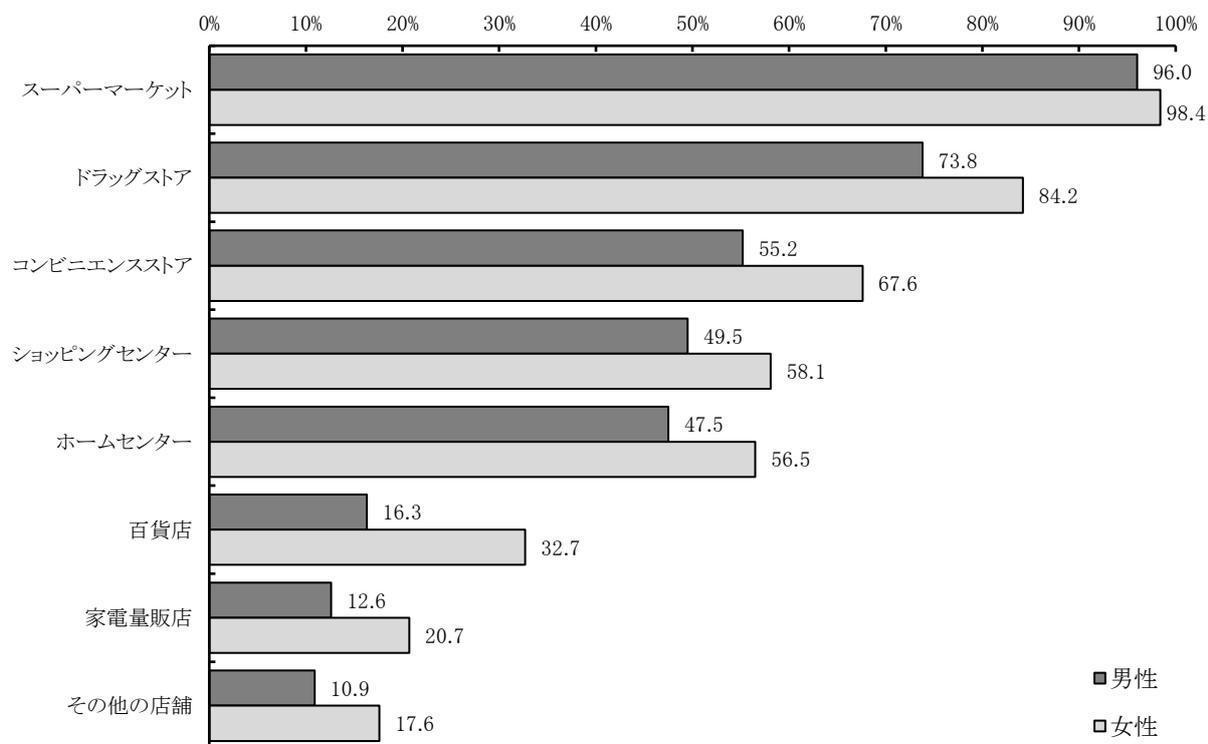
問36-1 マイバックを持参・利用する場所

マイバックを使用していると答えた人にマイバックを持参・利用する場所について聞いたところ、「スーパーマーケット」(97.6%)と答えた人の割合が最も多く、以下「ドラッグストア」(80.4%)、「コンビニエンスストア」(63.0%)、「ショッピングセンター」(55.0%)、「ホームセンター」(53.3%)などの順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「スーパーマーケット」と答えた人の割合が最も多くなっている。全ての場所において女性の方が男性よりも多くなっている。

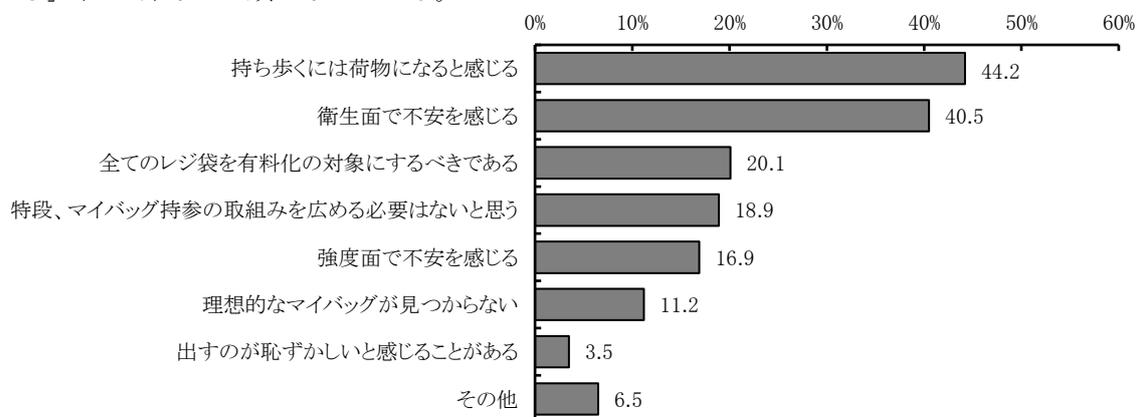


問36-2 マイバッグの持参に関する課題

あなたは、今後、マイバッグ持参の取組みをさらに進めていくためには、どのようなことが課題だと感じますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

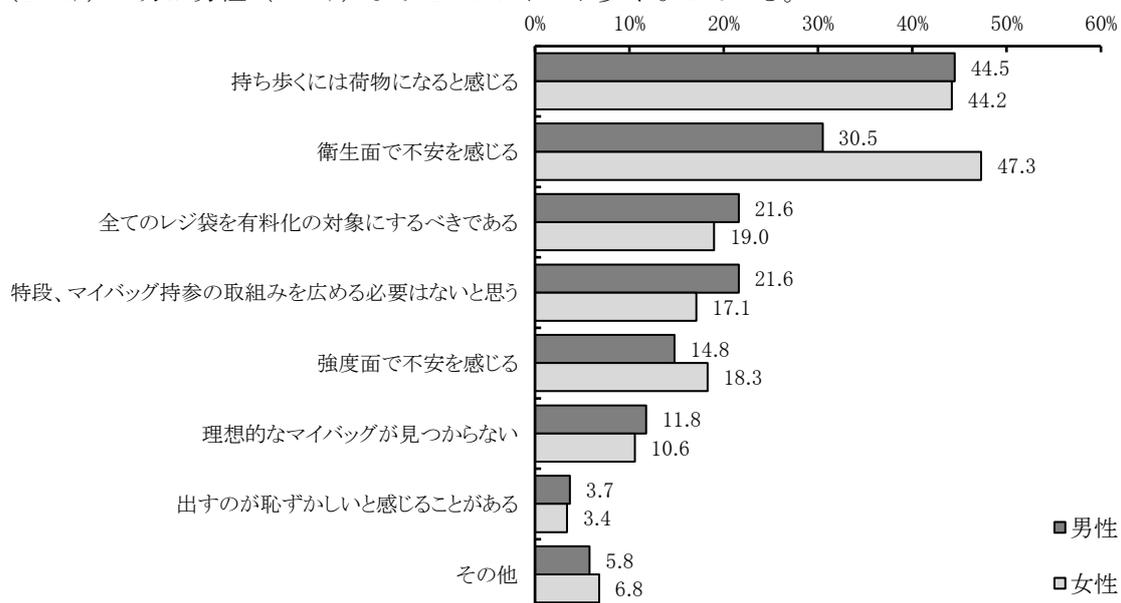
	(複数回答)	(%)
1 持ち歩くには荷物になると感じる		44.2
2 強度面で不安を感じる		16.9
3 出すのが恥ずかしいと感じることがある		3.5
4 理想的なマイバッグが見つからない		11.2
5 衛生面で不安を感じる		40.5
6 全てのレジ袋を有料化の対象にするべきである		20.1
7 特段、マイバッグ持参の取組みを広める必要はないと思う		18.9
8 その他		6.5

マイバッグ持参について聞いたところ、「持ち歩くには荷物になると感じる」(44.2%)と答えた人の割合が最も多く、以下「衛生面で不安を感じる」(40.5%)、「全てのレジ袋を有料化の対象にするべきである」(20.1%)、「特段、マイバッグ持参の取組みを広める必要はないと思う」(18.9%)、「強度面で不安を感じる」(16.9%)などの順となっている。



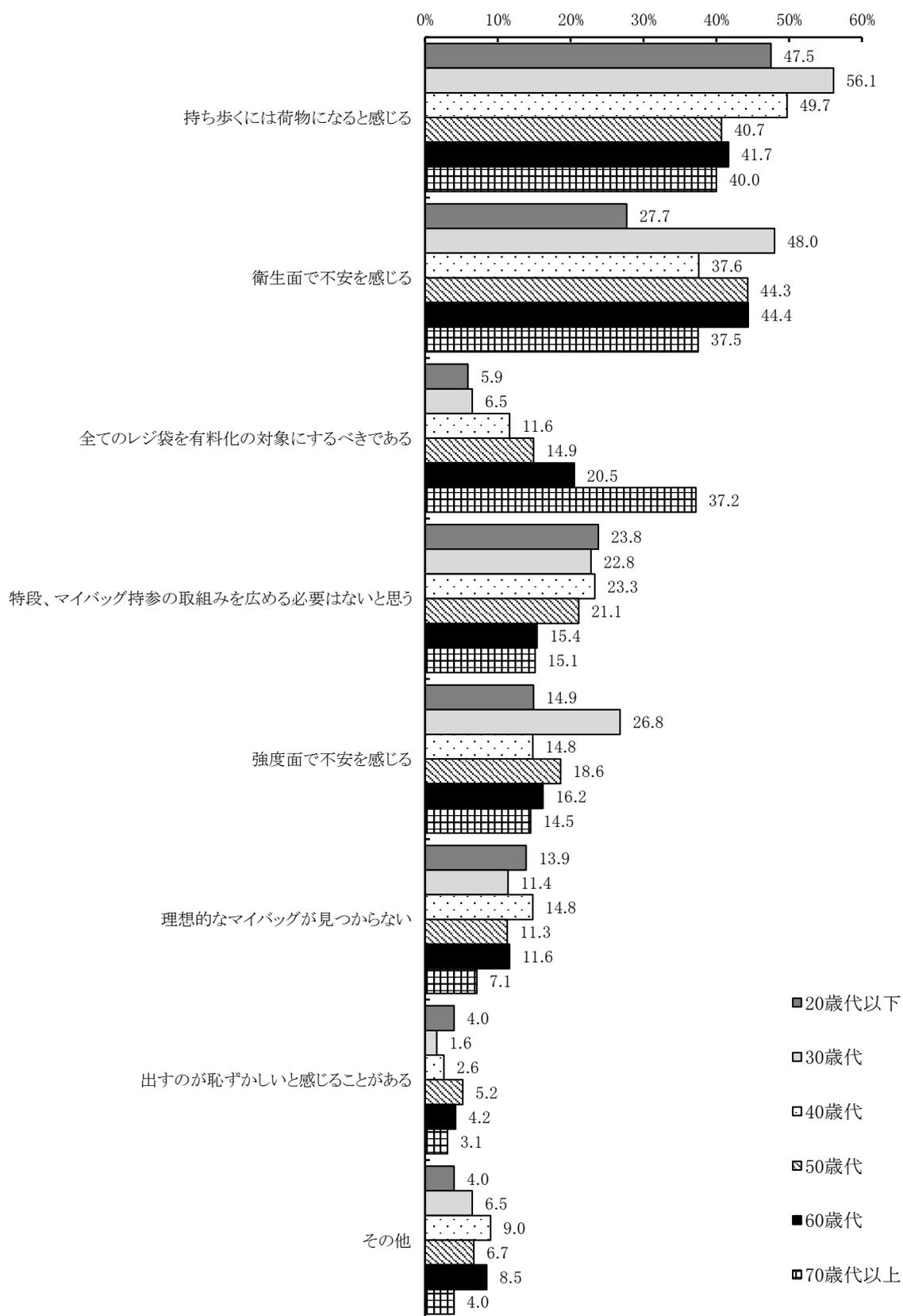
【性別】

性別にみると、男性は「持ち歩くには荷物になると感じる」(44.5%)、女性は「衛生面で不安を感じる」(47.3%)と答えた人の割合が最も多くなっている。「衛生面で不安を感じる」と答えた人の割合は、女性(47.3%)の方が男性(30.5%)より16.8ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以下及び70歳代以上では「持ち歩くには荷物になると感じる」と答えた人の割合が最も多く、50歳代及び60歳代では「衛生面で不安を感じる」が最も多くなっている。「全てのレジ袋を有料化の対象にするべきである」は70歳代以上(37.2%)で最も多くなっている。



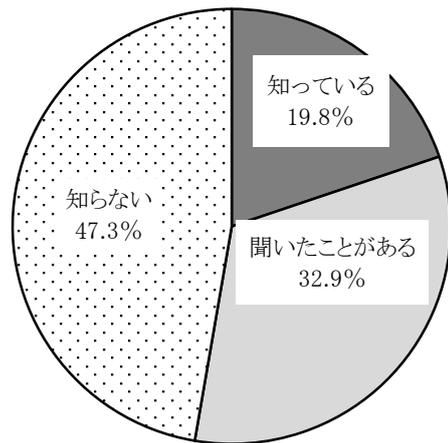
生物多様性の保全

問37 「生物多様性」という言葉の認知度

「生物多様性」とは、地域には固有の自然があり、それぞれに特有の数多くの生き物が存在し、そしてそれらが様々な関係で繋がりにあっている状態のことであり、我々は、こうした自然から衣食住に始まり、豊かな文化、災害防止などの安全・安心の基礎など、様々な恩恵（生態系サービス）を受けています。あなたは、「生物多様性」という言葉をご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

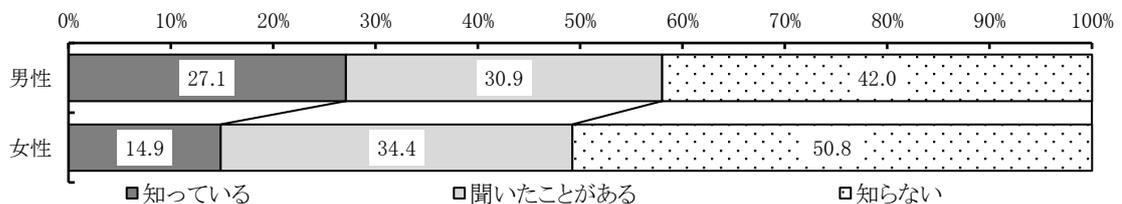
	(%)
1 知っている	19.8
2 聞いたことがある	32.9
3 知らない	47.3

生物多様性について聞いたところ、「知らない」(47.3%)と答えた人の割合が最も多く、以下「聞いたことがある」(32.9%)、「知っている」(19.8%)の順となっている。



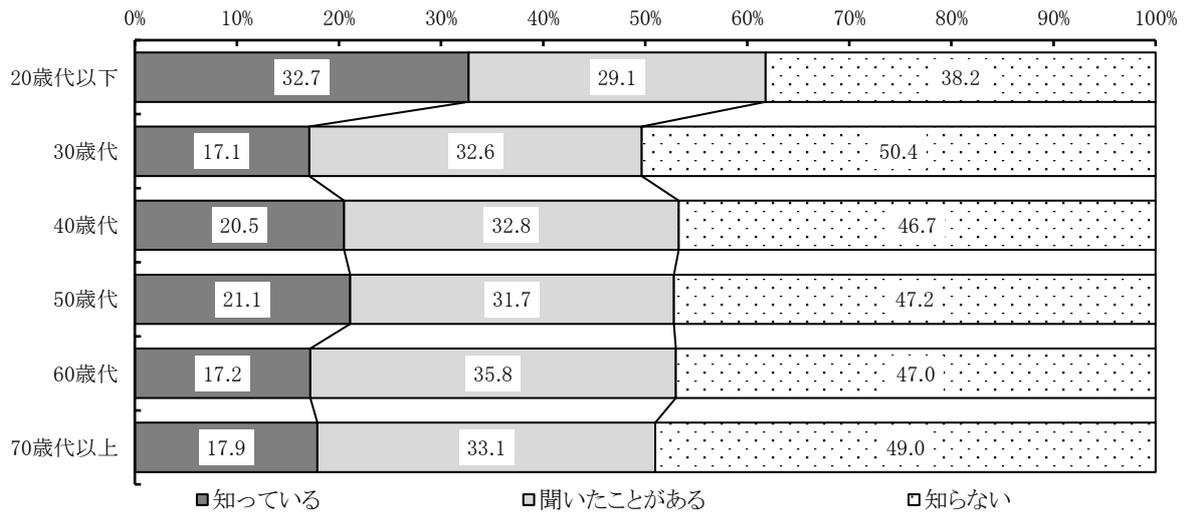
【性別】

性別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、男性(27.1%)の方が女性(14.9%)より12.2ポイント多くなっている。



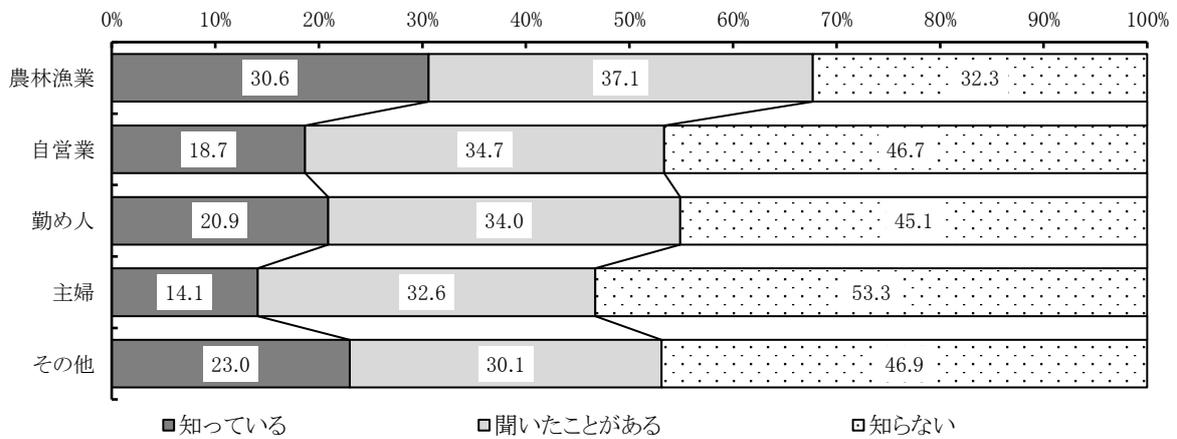
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らない」と答えた人の割合が最も多く、30歳代が最も多くなっている。一方、「知っている」と答えた人の割合は、20歳代以下が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、農林漁業が最も多く、主婦が最も少なくなっている。



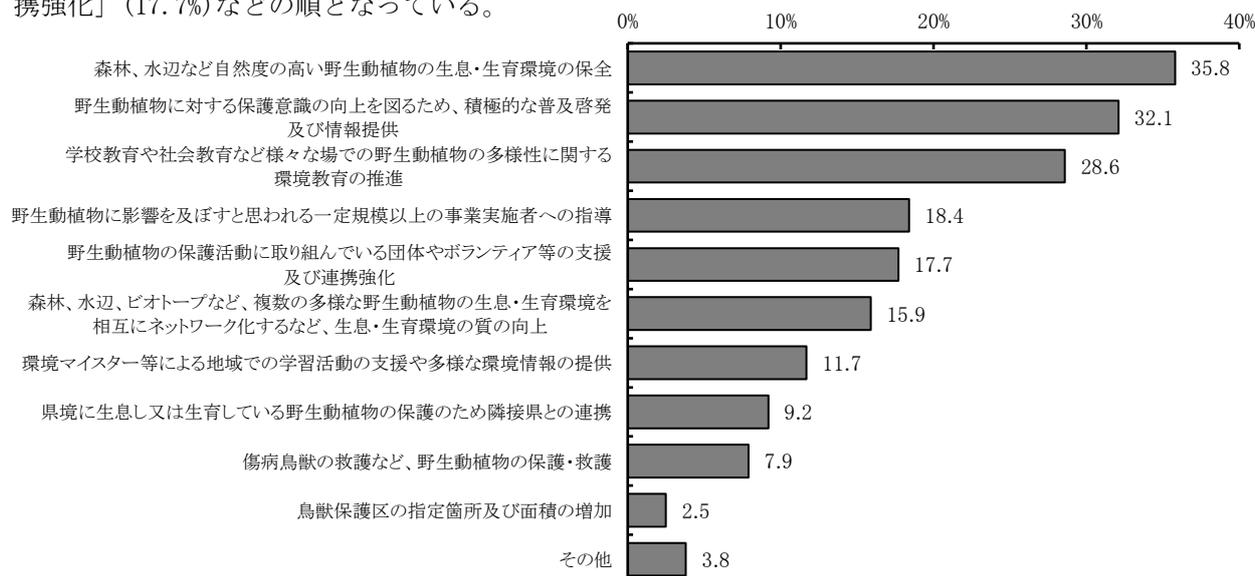
問37-1 生物多様性保全のための取組み(県が力を入れるべきことから)

将来にわたって、生物多様性の保全を図っていくために、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供	32.1	32.1
2 環境マイスター(注1)等による地域での学習活動の支援や多様な環境情報の提供	11.7	11.7
3 野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業実施者への指導	18.4	18.4
4 森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全	35.8	35.8
5 森林、水辺、ビオトープ(注2)など、複数の多様な野生動植物の生息・生育環境を相互にネットワーク化するなど、生息・生育環境の質の向上	15.9	15.9
6 傷病鳥獣の救護など、野生動植物の保護・救護	7.9	7.9
7 鳥獣保護区の指定箇所及び面積の増加	2.5	2.5
8 学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進	28.6	28.6
9 野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化	17.7	17.7
10 県境に生息し又は生育している野生動植物の保護のため、隣接県との連携	9.2	9.2
11 その他	3.8	3.8

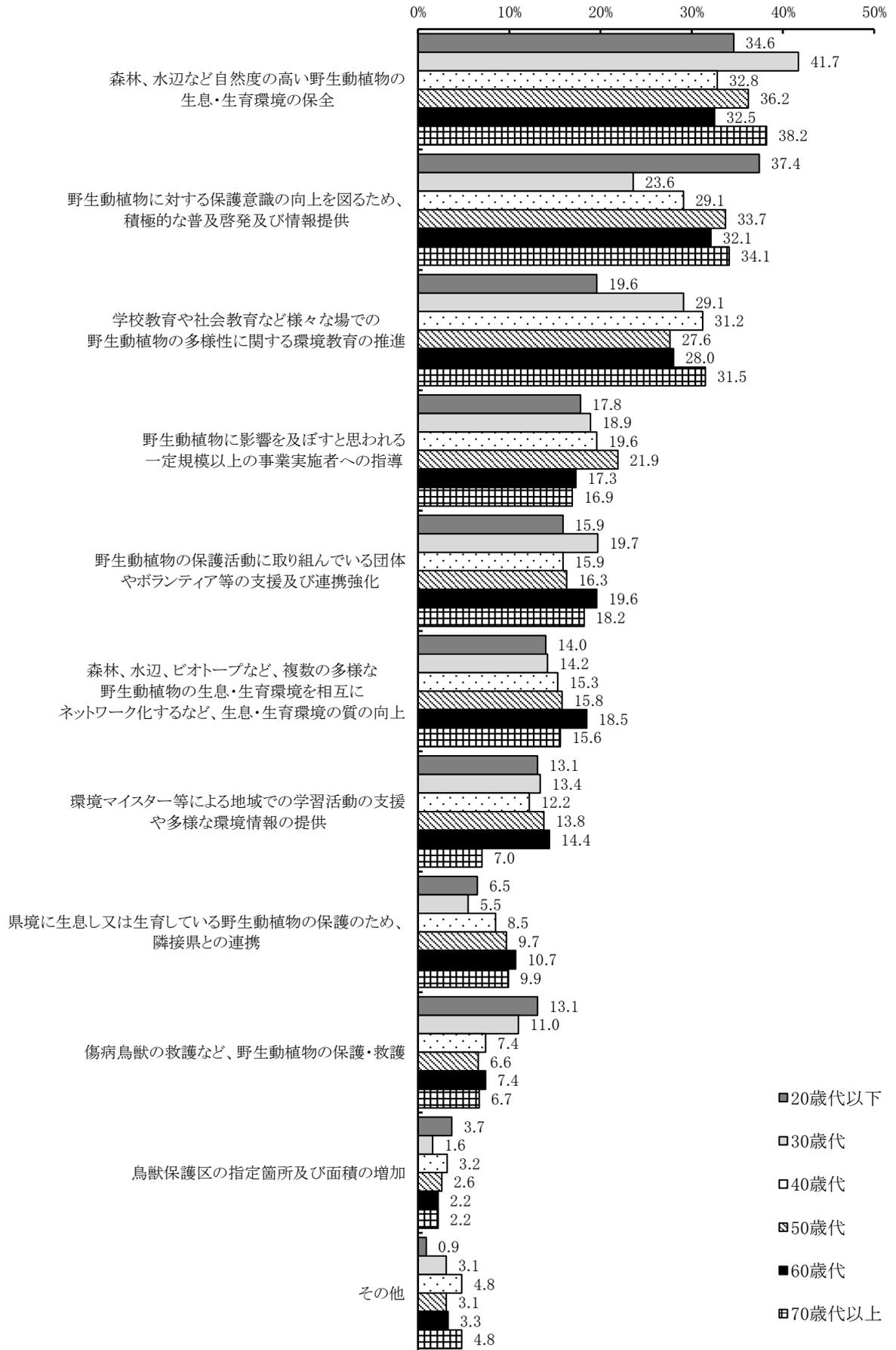
(注1) 環境マイスター：地域の環境学習活動等に派遣される県内の登録された研究者等
 (注2) ビオトープ：生物が住んでいる場所のことで、生息場所とも言われる

生物多様性の保全について聞いたところ、「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」(35.8%)と答えた人の割合が最も多く、以下「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」(32.1%)、「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」(28.6%)、「野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業実施者への指導」(18.4%)、「野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化」(17.7%)などの順となっている。



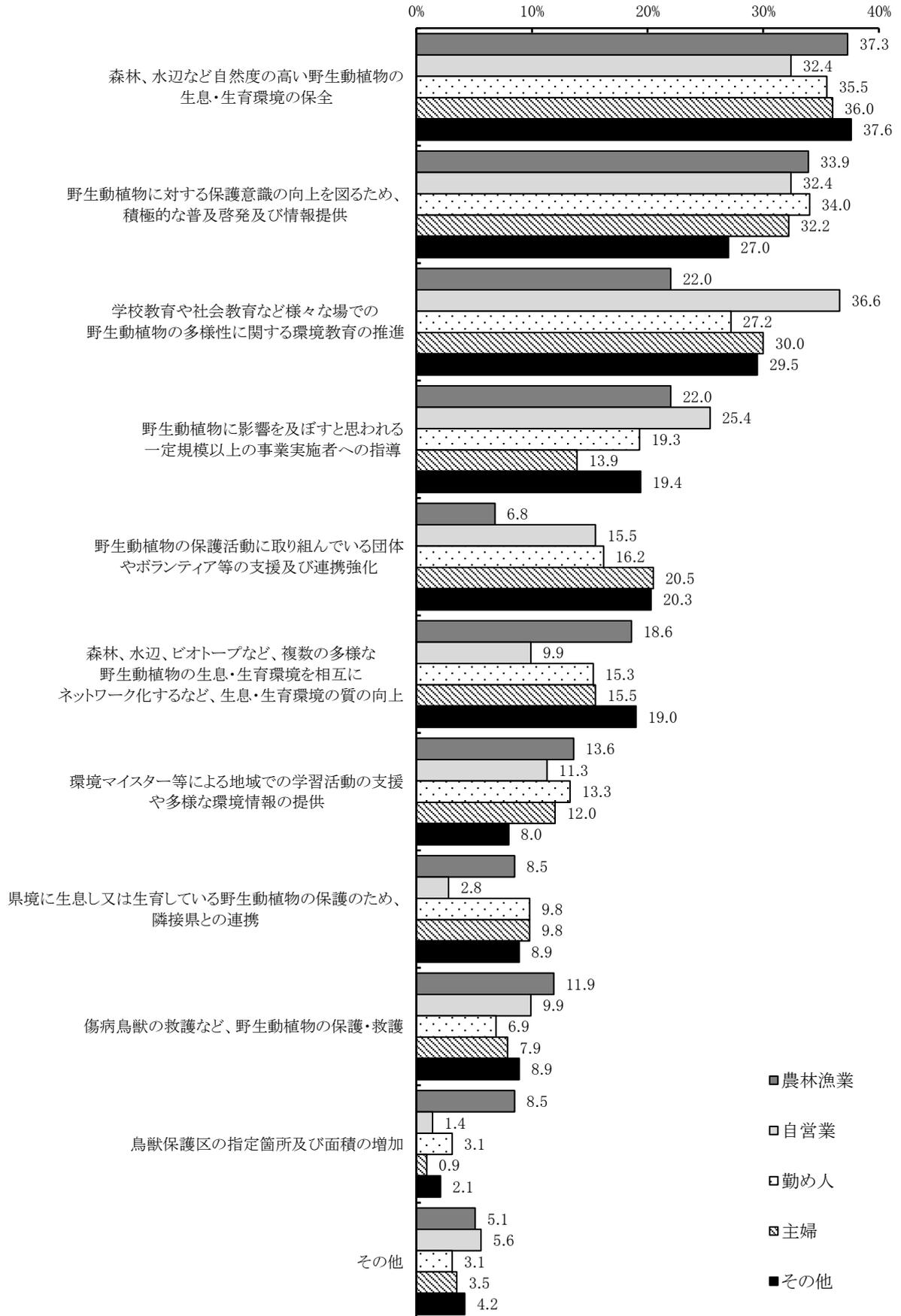
【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下を除く全ての年齢層で「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が最も多くなっている。20歳代以下では「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、自営業を除く全ての職業で「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が最も多くなっている。自営業では「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多くなっている。



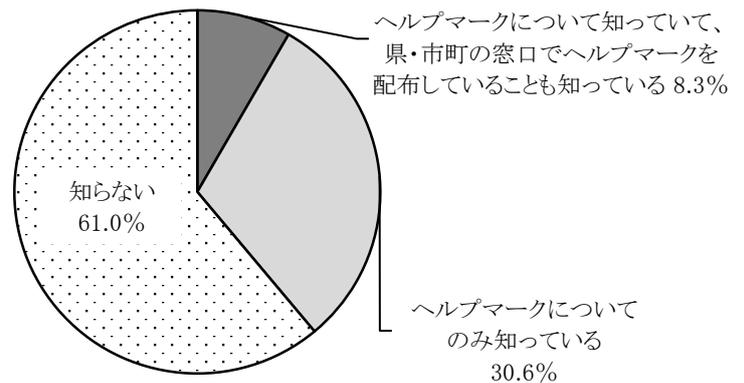
ヘルプマークの認知度

問38 ヘルプマークの認知度

県では、平成29年10月から、外見から分かりにくい障がいのある方が身に付けることで周囲から支援を受けやすくするヘルプマークについて、県と20市町で配布をしているところですが、あなたは、ヘルプマークについてご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

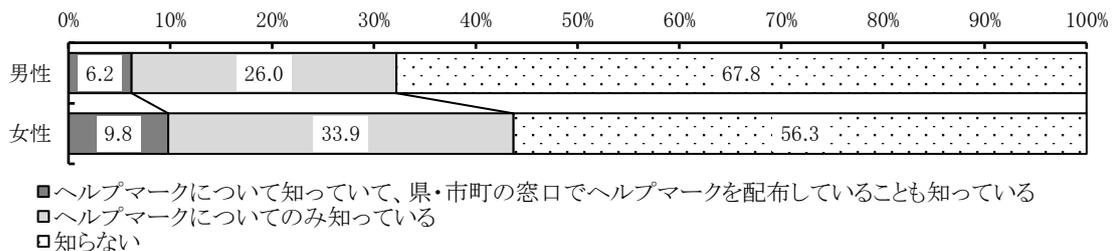
	(%)
1 ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている	8.3
2 ヘルプマークについてのみ知っている	30.6
3 知らない	61.0

外見から分かりにくい障がいのある方が身に付けることで周囲から支援を受けやすくするヘルプマークについて聞いたところ、「知らない」(61.0%)と答えた人の割合が最も多く、以下「ヘルプマークについてのみ知っている」(30.6%)、「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」(8.3%)の順となっている。



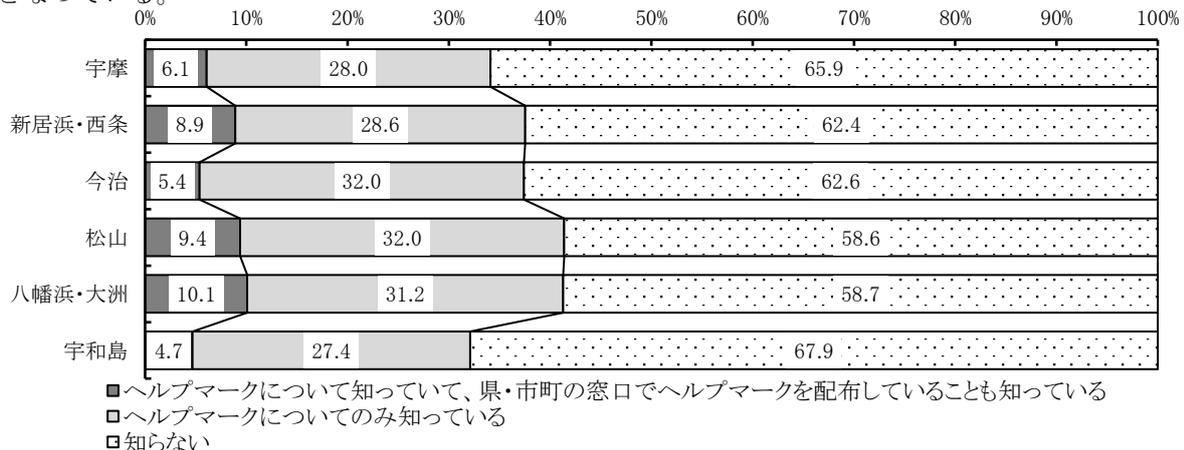
【性別】

性別にみると、男女共に「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。(男性67.8%、女性56.3%)一方、「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」と答えた人の割合は、女性(9.8%)の方が男性(6.2%)より3.6ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。一方、「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」と答えた割合の人は八幡浜・大洲圏域(10.1%)が最も多くなっており、それ以外の全ての圏域では1割未満となっている。



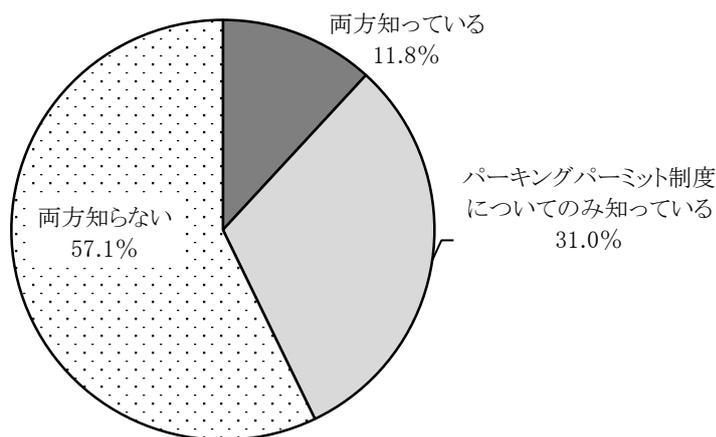
パーキングパーミット制度及びパーキングパーミットプラスワン制度の認知度

問39 パーキングパーミット制度及びパーキングパーミットプラスワン制度の認知度

県では、平成22年7月から、身体障がい者等用駐車場を必要な方が利用しやすくするパーキングパーミット制度を導入しており、令和元年10月からは、一般の駐車スペースと同じ幅(3.5m未満)の駐車区画を新たに「パーキングパーミット・プラスワンスペース」と位置付ける、パーキングパーミットプラスワン制度を導入しました。あなたは、パーキングパーミット制度及びパーキングパーミットプラスワン制度についてご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

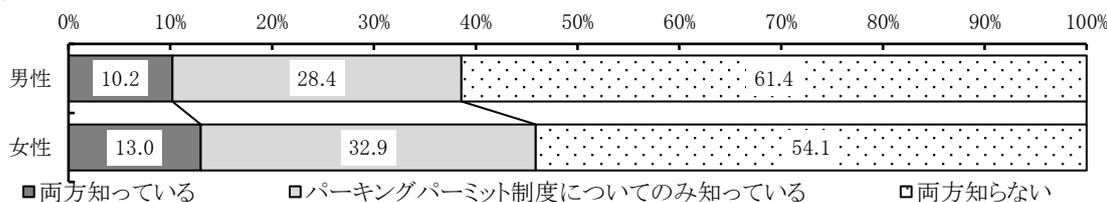
	(%)
1 両方知っている	11.8
2 パーキングパーミット制度についてのみ知っている	31.0
3 両方知らない	57.1

パーキングパーミット制度及びパーキングパーミットプラスワン制度について聞いたところ、「両方知らない」(57.1%)と答えた人の割合が最も多く、以下「パーキングパーミット制度についてのみ知っている」(31.0%)、「両方知っている」(11.8%)の順となっている。



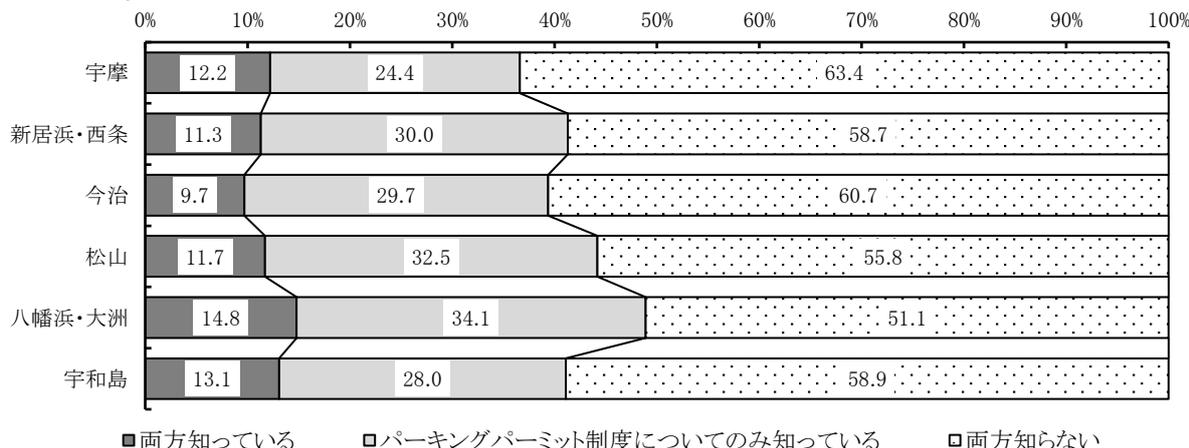
【性別】

性別にみると、男女共に「両方知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。(男性61.4%、女性54.1%)一方、「両方知っている」では女性(13.0%)の方が男性(10.2%)より2.8ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「両方知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。一方、「両方知っている」と答えた割合の人は今治圏域で1割未満、それ以外の全ての圏域でも2割未満となっている。



文化財の関心度

問40 文化財の見学状況

あなたは、過去1年間（平成31年1月から令和元年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがありますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

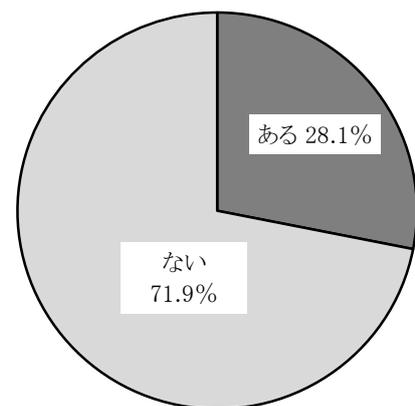
	(%)
1 ある	28.1
2 ない	71.9

どのような文化財を見学されましたか。見学した文化財の種類について、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

(回答者=364人) (複数回答) (%)

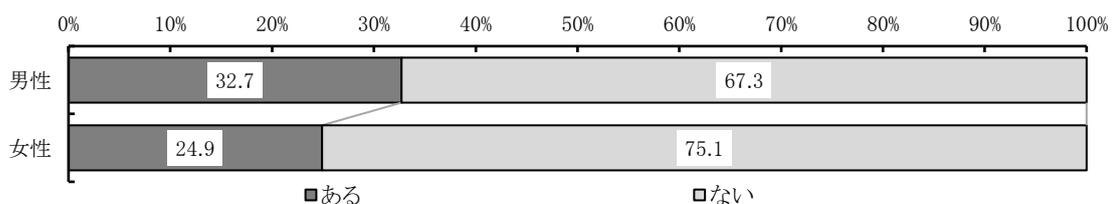
1 建造物	62.9
2 絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品	32.7
3 演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財	9.3
4 生業・信仰・年中行事等の民俗文化財	8.5
5 史跡・名勝地・天然記念物	54.4
6 棚田・段畑等の文化的景観	20.3
7 伝統的建造物群保存地区	19.8

過去1年間（平成31年1月から令和元年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがあるか聞いたところ、「ある」と答えた人の割合が28.1%、「ない」が71.9%となっている。



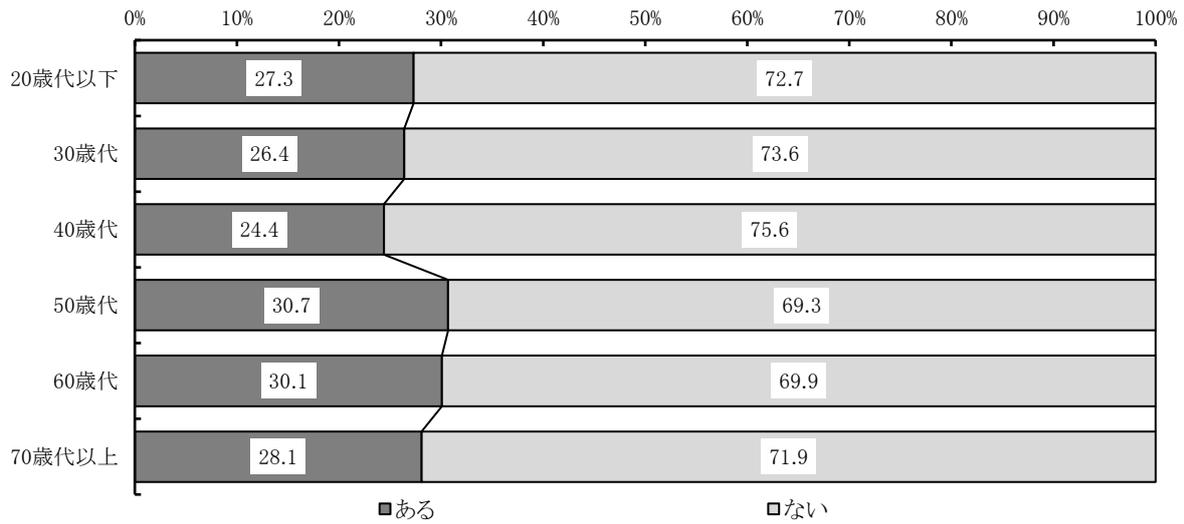
【性別】

性別でみると、「ある」と答えた人の割合は、男性（32.7%）の方が女性（24.9%）より7.8ポイント多くなっている。



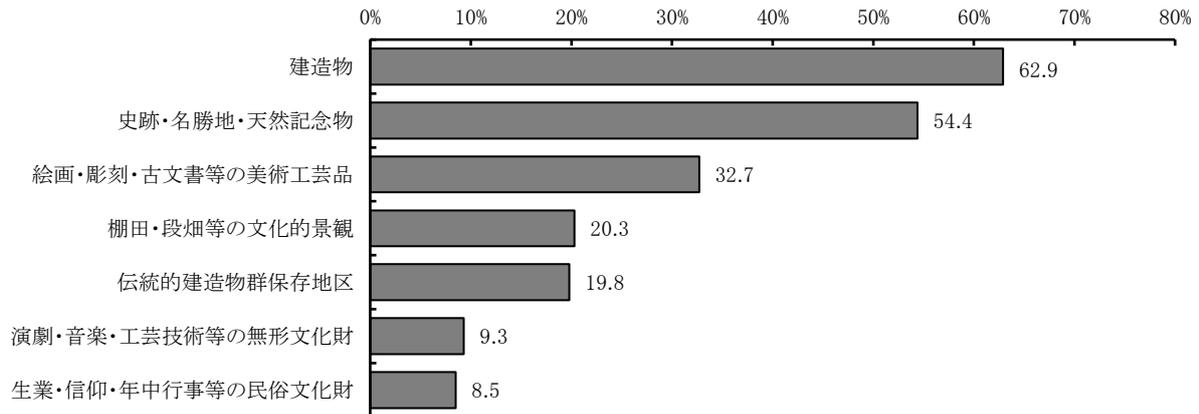
【年齢別】

年齢別でみると、「ある」と答えた人の割合は、50歳代及び60歳代で3割を超え、それ以外の全ての年齢層では3割未満となっている。



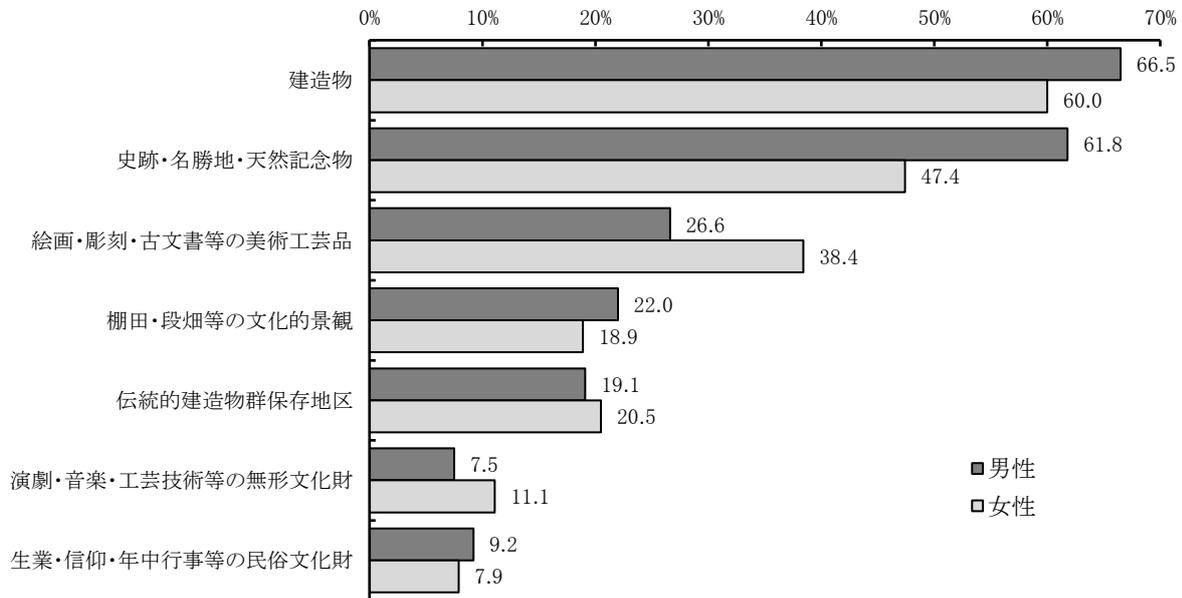
問40-1 見学したことがある文化財

過去1年間に文化財を見学したことがある人に、見学したことがある文化財の種類を聞いたところ、「建造物」(62.9%)と答えた人の割合が最も多く、以下「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」(54.4%)、「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」(32.7%)、「棚田・段畑等の文化的景観」(20.3%)、「伝統的建造物群保存地区」(19.8%)などの順となっている。



【性別】

性別でみると、男女共に「建造物」と答えた人の割合が最も多くなっている。「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」、「伝統的建造物群保存地区」、「演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財」と答えた人の割合は、女性の方が男性より多くなっているが、それ以外は男性の方が女性より多くなっている。「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」と答えた人の割合は、男性（61.8%）の方が女性（47.4%）より14.4ポイント多くなっている。「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」と答えた人の割合は、女性（38.4%）の方が男性（26.6%）より11.8ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別でみると、30歳代以下、50歳代及び60歳代では「建造物」と答えた人の割合が最も多く、それ以外の全ての年齢層でも5割を超えている。40歳代及び70歳代以上では「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。「建造物」では、50歳代が最も多くなっている。「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」では、40歳代が最も多く、30歳代が最も少なくなっている。

